

長野県松本市

OGAMI

麻 神 遺 跡

—第3次発掘調査報告書—



2020.3

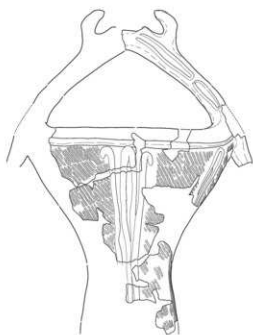
松本市教育委員会

長野県松本市

OGAMI

麻 神 遺 跡

—第3次発掘調査報告書—



2020.3

松本市教育委員会

例言

- 1 本書は、平成30年11月8日～31年1月11日に実施された、長野県松本市波田7338番地ほかに所在する麻神遺跡の第3次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営畑地帯総合土地改良事業中下原平林地区に伴う緊急発掘調査であり、長野県松本地域振興局から松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査と整理作業、報告書作成を行った。
- 3 整理作業の一部と本書の作成は令和元年度に行った。
- 4 執筆分担は次のとおり。
1章：事務局、Ⅲ章3節3：原田健司、Ⅲ章4節：那須浩郎、佐々木由香、会田進、その他：直井雅高
- 5 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおり。
遺物洗浄・注記・接合・復元 荒井留美子、市川三三夫、内田和子、中澤温子、三澤栄子
遺物実測・拓影(土器土製品) 柏原佳子、久保田瑞恵、竹内直美、竹平悦子、直井雅高、宮本章江
(石器石製品) 柏原佳子、佐々木正子、白鳥文彦、竹内直美
遺物トレース 富岡享子、直井植之介、直井知導、原田健司、前沢里江、丸山恵
写真撮影(遺構) 白鳥文彦、直井雅高、林祥平、三村竜一(遺物) 宮嶋洋一
遺構製図・トレース 荒井留美子 一覧表作成(遺構) 荒井留美子、(石器石製品) 白鳥文彦
DTP 直井知導、前沢里江 編集 直井雅高 総括 三村竜一
- 6 本文・図表中の略記は次のとおり。○号竪穴建物→○住、土坑○→土○、ビット→P、トレンチ→T、グリッド→G
土器・土製品番号に付した★印は種実圧痕があったもの(第4節表4)、図中の矢印・丸印は種実圧痕の位置を示す。
- 7 図中で使用した方位は真北を示す。なお、本文・図表中には調査時に設定した任意の座標系の数字を用いた個所がある。国家座標との対応関係はⅢ章1節2を参照されたい。
- 8 出土した炭化植物と土器種実圧痕の調査・分析は那須浩郎、佐々木由香、会田進の各氏が共同で実施したもので、結果について玉稿を預載した。記して感謝申しあげる。
- 9 発掘調査実施、報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご教示をいただいた。記して感謝申しあげる。
小林康男、小松学、近藤尚義、島田哲男、関沢聡、寺内隆夫、平林彰、廣田和穂、堀田雄二、百瀬長秀、百瀬光信、綿田弘実、和田和哉
- 10 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館(〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189)に保管している。

目次

図目次

例言・目次	1
第1章 調査の経緯	2
第2章 遺跡の環境	4
第3章 調査成果	
第1節 調査の概要	6
第2節 遺構	
1 竪穴建物	8
2 土坑・ビット等	9
第3節 遺物	
1 土器	17
2 土製品	18
3 石器・石製品	38
第4節 自然科学分析	46
第4章 総括	55
写真図版	
報告書抄録	

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡	3
第2図 第1・2次調査	5
第3図 調査地の位置	6
第4図 遺構配置の概略	7
第5図 土層模式図	7
第6図 遺物包含層グリッドの設定	8
第7～10図 遺構(1)～(4)	13
第11図 弥生土器	18
第12～21図 縄紋土器実測図(1)～(10)	19
第22図 土製品	28
第23～31図 縄紋土器拓影(1)～(9)	29
第32～34図 石器・石製品実測図(1)～(3)	43

第I章 調査の経緯

第1節 調査経過

長野県松本地域振興局（以下「振興局」という。）により松本市波田 7338 番地ほかで県営畑地帯総合土地改良事業中下原平林地区に伴う管渠埋設工事が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地麻神遺跡に該当していた。松本市教育委員会（以下「市教委」という。）と振興局は当該文化財の保護について協議を行い、遺跡が破壊される範囲について発掘調査を実施し記録保存を図ることとなった。発掘調査とそれに関連する事務を市教委が実施することで、振興局と松本市の間に発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は平成 30 年 11 月 8 日から平成 31 年 1 月 11 日にかけて実施し、調査終了後、埋蔵物発見届を松本警察署に提出して、長野県教育委員会（以下「県教委」という。）より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。また、1 月 24 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。令和元年 8 月 5 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、8 月 20 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

<平成 30 年度>

- 7 月 30 日 振興局と松本市が埋蔵文化財調査業務に関する委託契約を締結
- 10 月 18 日 埋蔵文化財発掘調査に伴う農地転用届書（一時転用）を農業委員会に提出
- 11 月 8 日～1 月 11 日 発掘調査を実施
- 1 月 11 日 「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を松本警察署、県教委に提出
- 1 月 24 日 「発掘調査終了報告書」を県教委に提出
- 1 月 25 日 「文化財の認定及び帰属について」県教委から市教委に通知
- 3 月 19 日 松本市が振興局に「埋蔵文化財発掘調査完了報告書」を提出

<令和元年度>

- 8 月 5 日 「出土文化財譲与申請書」を県教委へ提出
- 8 月 20 日 「出土文化財の譲与について」県教委から通知
- 8 月 30 日 振興局と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結（整理作業、報告書刊行）

第2節 調査体制

1 平成 30 年度

調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当 三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、林 祥平（主事）、白鳥文彦（嘱託）、直井雅尚（同）

発掘協力者 伊藤節子、坂口ふみ代、曾根原裕、西村一敏、原 弘、矢野芳徳

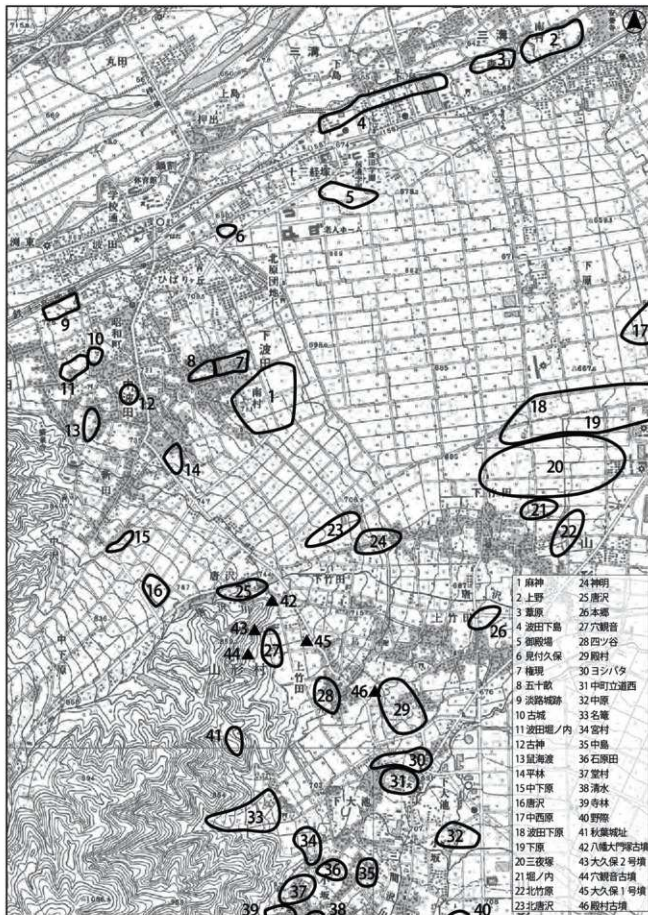
事務局 文化財課：大竹永明（課長）、三村竜一、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

2 令和元年度

整理担当 三村竜一、直井雅尚 調査員 百瀬長秀、宮嶋洋一

整理協力者 久保田瑞恵、澤柳宣子、竹内直美、竹平悦子、宮本章江、村山牧枝

事務局 文化財課：大竹永明、竹内靖長（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司、吉見寿美恵



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

本遺跡は松本平の西南に位置し、北アルプスの前山に源を発する唐沢川により作られた扇状地上、海拔700～715mの一帯にある。今回の調査地は海拔704～711mの範囲にある。この一帯は昭和46・47年のほ場整備工事により本来の地形や土層は失われたが、元々は唐沢川扇状地の北端を流れる小流（中沢）に接する微高地だったと推定する。昭和47年の第2次調査で「遺物包含層は、上から、表土、黒色土、暗褐色土、褐色土、と続く土層中の、暗褐色土中に、層をなして存在（中略）顕微鏡的には、表土、黒色土、暗褐色土は、いずれもよく似ており、石英粒と粘土からなる。黒色土中には、特に有機物が多く入っている。その下部の褐色土は、ロームに近いが、流水の作用を受け、洗われており、酸化が進み、小礫を含んでいる。褐色土以下は、礫、砂、共に、唐沢川によるもの」と観察されている。

第2節 歴史的環境

松本平の西南山麓部は縄紋時代の大規模な遺跡が多く残り、本遺跡もそのひとつである。これらを南から列挙すると、朝日村の山鳥場遺跡、熊久保遺跡、山形村の洞遺跡、淀の内遺跡、殿村遺跡、三夜塚遺跡、山形村から松本市にまたがる下原遺跡（松本市分は波田下原遺跡）、松本市波田の麻神遺跡、草原遺跡、松本市梓川の荒海波遺跡、仁王門遺跡、神道原遺跡などである。いずれも発掘調査で中期の竪穴建物が多数発見されており、その合計は360棟を超える。一方、このエリアで縄紋時代以降の発見事例は少なく、山形村の唐沢遺跡で弥生時代中期の遺構、ヨシバタ遺跡と洞遺跡で同後期の竪穴建物、殿村遺跡で方形周溝墓1基、古墳時代は山形村上竹田地区で7世紀末～8世紀前半の横穴古墳が数基確認されているのみである。奈良・平安時代もヨシバタ遺跡と殿村遺跡、草原遺跡で小規模な集落が確認されているにすぎない。（太字は第1図に載っている遺跡を示す。）

第3節 過去の調査成果

1 第1次調査

昭和46年9月15日から27日にかけて、中信平農業水利事業右岸幹線水路新設工事に先立つ緊急発掘として、波田村教育委員会が組織した麻神遺跡調査団（団長：藤沢宗平、副団長：小松虔）によって行われた。第1地区と第2地区の2地点を設定し、第2地区から8棟の住居址（第1～8号住居址）が発見されている。時期はいずれも縄紋時代中期である。第1地区では明確な遺構の確認はないが、縄紋時代中期と後期、弥生時代中期の土器が出土し、焼土や平石を検出した地点は住居址が存在した可能性を指摘している。

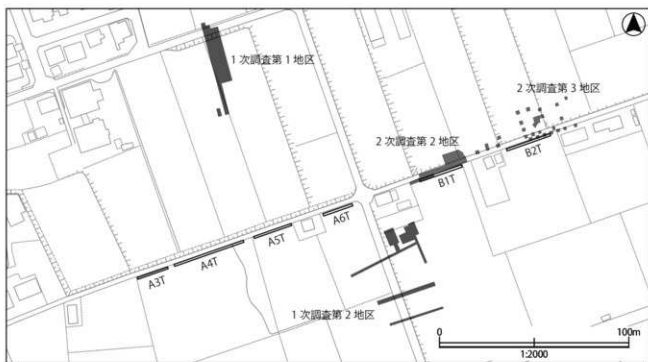
2 第2次調査

昭和47年8月1日から9日にかけて、県営圃場整備事業波田地区下波田工区工事に先立つ緊急発掘として、波田村教育委員会が組織した麻神遺跡調査団によって行われた。第2地区と第3地区の2地点を設定したが、第2地区は前年度に行った第1次調査の第2地区のすぐ東側に隣接するため、同一の地区名としている。第2地区から縄紋時代中期の住居址6棟と18基の「穴状遺構（小松）」あるいは「凹穴（藤沢）」が発見された。内部からヒスイの垂飾が出土したものがあり、藤沢氏は土壘（墓域）ではないかと考えている。

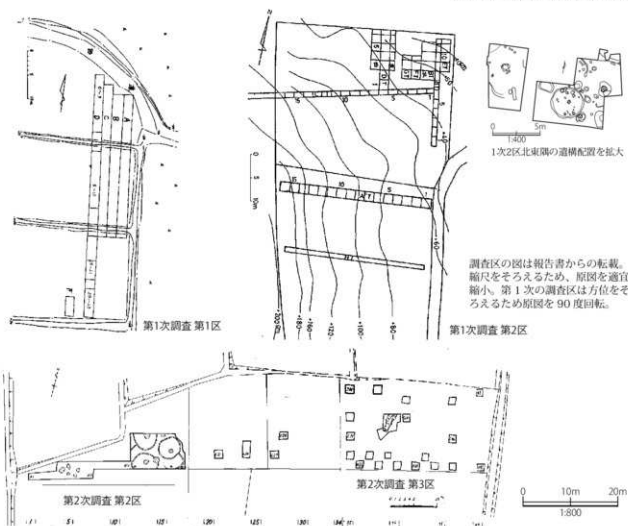
【参考文献】

藤沢宗平ほか1972『長野県東筑摩郡波田村麻神遺跡緊急発掘調査報告書』関東農政局中信平農業水利事業所、波田村教育委員会

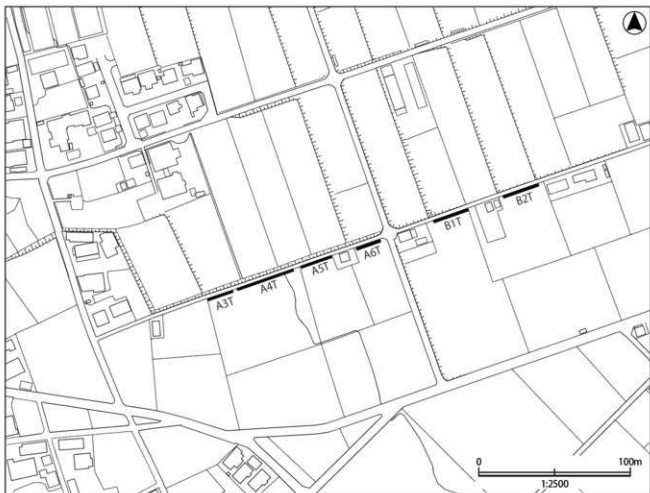
藤沢宗平ほか1973『長野県東筑摩郡波田村麻神遺跡第2次緊急発掘調査報告書』長野県中信農業水利改良事務所、波田村教育委員会



A3～6T、B1・2Tは今回(3次)調査地



第2図 第1・2次調査(上:調査地の位置、下:調査区の詳細)



第3図 調査地の位置

第三章 調査成果

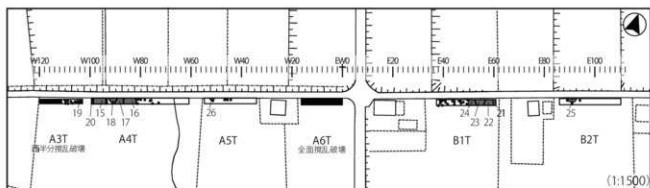
第1節 調査の概要

1 調査区の設定 (第2図)

今回の開発事業は1m幅の掘削を伴う管路埋設工事が遺跡を東西に細長く横断するもので、遺跡内での総延長は300mに及ぶ。このうち農業施設の部分、畑の出入口及び隣地境界線を除く範囲を調査対象とした。調査範囲の中央東寄りで南北に交差する農道から西側をA区、東側をB区とし、それぞれ西方からA1～A6、B1、B2のトレンチ8本(トレンチ幅は工事の掘削幅に合わせ1m)を設定して調査区とした。ただしA1・A2トレンチが位置する畑は最終的に了解が得られず、それを除く6本のトレンチで調査を実施した。

2 調査の方法・手順

遺構検出が可能な深度までパワーショベルで表土等を除去した後、人力での遺構検出と遺構の掘り下げを行った。ただしA3トレンチ(以下「A3T」と略す。他も同様。)とB1Tの全域、A4Tの西側1/3では遺構検出面の上部に遺物包含層が発達し大量の遺物が現れたため、その範囲に限ってトレンチ内を1.5m間隔で区切るグリッドを設定し(第6図)人力で掘り下げた。それに伴う遺物はグリッドごとに一括して取り上げた。遺構番号は種別毎に1号から通し番号を付したが、竪穴建物は第1・2次調査(S46・47)で計14棟が発見されているので後続させ15号からとした。遺構測量については、遺跡一帯の田畑や農道の地割がすべて真北から約20度西に振れており、調査地はこの地割に沿っているため真北を指向する座標系では平面図作成が困難なことを考慮し、すべての調査区を貫く単一の直線から平面測量用の点を振り出す任意の座標系を



第4図 遺構配置の概略

数字は竪穴建物、点は土坑・ピット
トレンチのみ垂直方向に拡大
EWIは任意座標系原点から東西への距離(m)

設定し作業を進めた。調査終了後に任意の座標系を国家座標に変換した。任意の座標系原点 (NSO、EWO) は国家座標 (世界測地系・第8系、東北太平洋沖地震後の補正值) $X = 21,228.942$ 、 $Y = -57,168.592$ である。平面測量は簡易通り方測量で、縮尺は平面・断面図共に 1/20 で作成した。写真は作業状況、遺物出土、遺構の細部と完掘及び全景をデジタルカメラで撮影した。

3 調査成果の概要

調査面積：300m²

発見遺構：竪穴建物 12 棟 (15 ~ 26 住)、土坑 15 基、ピット 38 基、溝状遺構 1 条

※ 25 住、土 21 ~ 23 は縄紋時代前期末、ほかはすべて縄紋時代中期

出土遺物 縄紋時代：土器、土製品 (土偶、匙形土製品、ミニチュア)、石器・石製品 (石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石類、石錐、剥片など)、自然遺物 (炭化物) 弥生時代：土器、石器 (太型鋸刃石斧)

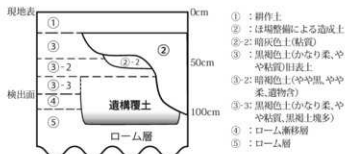
4 標準土層 (第5図)

一帯は緩い傾斜地であるが、基本的に表土・耕作土 (暗褐色土)、遺物包含層 (暗~黒褐色土)、地山 (黄~黄褐色土、再堆積ローム) の3層で構成される。遺物包含層が上下に分かれる部分があり、地山との間には漸移層がみられる。昭和40年代のほ場整備で地形が大きく改変され、表土と遺物包含層の間に造成土がある部分と、逆に遺構検出面以下まで削り取られた部分のみみられた。造成土の厚さは最大1m以上で、重機で一気に盛られたため、表土の暗褐色土や地山の黄色土が大きなブロックで無秩序に押し込まれていた。

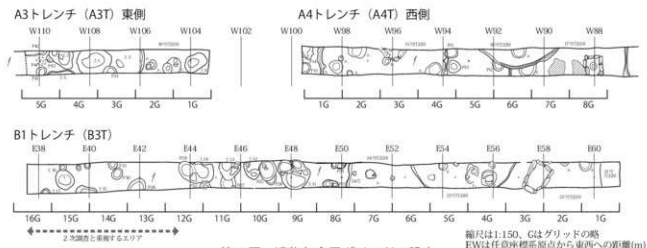
5 各トレンチの様相 (第4図)

A3T 西半分は厚さ30cm前後の耕作土下は造成土が1m以上あり、遺物包含層と遺構面はすべて失われていた。東半分は西側と同様1mほどの造成土があったが、その下に20~40cm厚の遺物包含層が残存し多量の遺物が含まれており、東半分全域にグリッドを設定して掘り下げた。遺物包含層の下部からは竪穴建物1棟 (19住) と土坑5基、ピット5基が検出された。遺構は縄紋時代中期後半から末に属する。

A4T 厚さ30cm前後の耕作土下に30~60cmの造成土があり、さらにその下に遺物包含層が残存した。トレンチ西側1/3は遺物包含層が20~40cm厚で発達、多量の遺物を含んでおり、グリッドを設定して掘り下げた。残りの区間は遺物包含層が10~15cmと薄くなり、遺物も非常に少なかった。西側の発達した遺物包含層の下部からは竪穴建物5棟 (15~18・20住) が重複して検出され、遺物包含層が薄い区間ではピットが散発的に検出できたのみであった。遺構はすべて



第5図 土層模式図



第6図 遺物包含層グリッドの設定

縄紋時代中期後半に属する。弥生時代中期中葉の土器と石器が遺物包含層（5～7G）から散発的に出土したが、遺構はわからなかった。

A5T 30cm前後の耕作土下に造成土が20cm前後の厚さであり、その下部に約10cm厚の遺物包含層が残存したが遺物は僅少であった。西半分から竪穴建物1棟（26住）と土坑、ピット、溝状遺構が検出された。遺構はすべて縄紋時代中期後半に属する。検出面から弥生時代中期中葉の土器がわずかに出土した。

A6T 30cm前後の耕作土下に造成土が1m以上の厚さであり、遺物包含層と遺構面は全域で完全に削平され失われていた。西端部で中信平用水管渠埋設工事の掘り方の東端を確認した。

B1T 30～50cmの耕作土下に良好な遺物包含層が残り、全域にグリッドを設定して掘り下げた。東半分では20～30cm厚の遺物包含層から多量の遺物が出土、下部から竪穴建物4棟（21～24住）が重複して検出された。西半分には土坑7基とピット15基が密集していた。しかしトレンチ西端1/4の範囲では、遺物包含層とした黒褐色土が異様に均質で自然堆積の土層とは思えず、その範囲にある土坑・ピットの埋土も同様であった。ほ場整備の造成土とも異なり、あたかも人力で埋め戻した如くで、遺物の出土もわずかだった。調査終了後、過去の発掘地点を現在の地図にはめ込んだところ、2次調査（S47実施）の2地区A1～A7グリッドに重なることが判明した（第2図下段、第2章第3節）。遺構はすべて縄紋時代中期後半に属する。

B2T 40～50cmの厚い耕作土下に10cm前後の造成土があり、その下部に約5cm厚の遺物包含層が残存していたが遺物は僅少であった。西側1/3で竪穴建物1棟（25住）と土坑3基（21～23土）が集中して検出された。遺構はいずれも縄紋時代前期末に属し、他トレンチとは時期が異なる。

第2節 遺構

1 竪穴建物（第7～10図、第1表）

12棟を検出した。各トレンチの内訳はA3Tが1棟、A4Tが5棟、A5Tが1棟、B1Tが4棟、B2Tが1棟で、A4T西部からA3T東部にかけて、B1T東部で集中、重複して存在した。幅1mのトレンチによる調査のため全形がわかるものではなく、構成する各部分を把握して竪穴建物と認定した。個々の記述は第1表のとおり。総体で見ると、把握できた部分としては床面、壁、炉、周溝（壁下溝）、ピット、埋喪がある。床面はすべて地山（再堆積のローム質土。小礫の混入状況は地点で大きく異なる。）をそのまま用い、貼り床はなかった。硬い土間状のものと硬さがほとんど感じられないものがあり、後者は上層から漸移的に地山に至るのではなく明らかに不整合をなす面で、かつ平坦なものを床と認定した。炉は15～17・22住の4棟で検出した。16住を除き方形や長方形の石囲炉であった。壁下の周溝は竪穴ごとに有無があり、竪穴の全形が不明なので部分的か全体に及ぶのかわからない。ピットは全例で柱穴配置と関連付けて捉えることは不能

であった。埋裏は 23 住のみで検出された。

遺物出土状況は、A4T 西部から A3T 東部と、B1T 東部の竪穴建物が集中する個所では遺物包含層が発達し、竪穴建物の存在が確定する以前から、上部で大量の遺物が出土した。おそらくその地点の竪穴建物の覆土最上層に帰属するものであろう。竪穴建物内では床面直上や覆土最下層に多くの遺物が遺存する例(16・17 住)と、上部での出土量に比して床面や最下層からは少なかった例(22・23 住)が顕著であった。

2 土坑・ピット等(第7～10 図、第2・3 表)

概ね直径 50cm 以上の穴を土坑、それ以下をピットという遺構名で把握し、遺構番号を付した。ただしピット相当でも遺物が皆無や人為に掘らないと判断したものは番号を付さなかった。規模等の詳細は第2・3 表で示す。細い溝状の遺構も 1 基確認されたが、規模からみてピットと同種のものかもしれない。

土坑は計 15 基が検出された。各トレンチでの内訳は A3T が 5 基、A4T と A5T にはなく、B1T が 7 基、B2T が 3 基で、大半は竪穴建物の近くに分布する。平面形は円、楕円が基調で、壁は急傾斜が多い。少量の遺物が散発的に出土したものがほとんどだが、A3T の土 1・2・4、B1T の土 13 からはまとまった量の出土があった。

特記すべき土坑としては A3T の土 1 が挙げられる。平面形は直径 1.4m 前後のほぼ円形で、検出面から 1m 近く掘り込まれる深いものであった。壁の傾斜は急で、底面は平坦だが硬さはなく、ごく薄い炭化物の層に覆われていた。底面より 10 cm 数浮いて 20cm 大の礫 10 点が水平に集められていた。覆土は上・下層・最下層に分かれ、上層は黒色土、下層と最下層は黒味を減じる黒褐色土で、上・下層は多量の遺物を含む。検出時から多量の土器片が立位で詰め込まれたように現れ、上層だけで 3 面の出土図を作成して遺物を取り上げた。上層の遺物包含部分は 40cm ほどの厚さがあり、その下部でいったん遺物の出土が止み、下層に入ると再び多量の遺物が始まったが、上層のように立位の感じはなかった。まとまった遺物出土は礫のレベルまでで終わり、最下層には土器小片が混じり込む程度であった。上層と下層の間で接合する土器がいくつかあり、本址の深い覆土の形成にあまり時期差がない可能性が考えられる。遺物量は土器 23.1kg、石器 40 点で、土器からみて縄紋中期末に属する遺構であろう。

ピットは計 38 基を認定、命名した。各トレンチでの内訳は A3T が 5 基、A4T が 13 基、A5T が 5 基、B1T が 15 基で、竪穴建物のない範囲にも若干の広がりがあった。平面形態は円形、楕円形が基調となっている。少量の遺物を出土したものが少数あるが、遺構の性格等の解明に結びつくものはなかった。

位置	A4TW94～98	壁	東側 40 cm、西側削平(トレンチの南北壁土層で見ると 40～50 cm)
平面	直径約 5.1m の円形と推定	炉・P	中央部で石囲炉の南半分を検出、一辺 80 cm 超の方形炉と推定。ピット 6 基。
床面	地山面を用い平坦で硬い	周溝	東西壁下で深さ 10 cm
検出状況	A4T 西端部で造成土までを重機で除去すると発達した遺物包含層が現れ、東西 2.5m ほどの範囲で平面的に広がる焼土を確認(第7 図下段右)。遺物包含層の 1・3G の掘り下げを進め、3G で地山のロームを叩き締めた床面を確認。2・4G も掘り下げて、床面の広がり、東壁と西壁の位置を示す周溝、石囲炉を把握。トレンチ北壁土層(第7 図 A4T① A-A ライン)には石囲炉の上部に複数の土層がレンズ状に重積している状況がみえ、前述の焼土(第6 層)もこれに伴う。石囲炉の位置とかなり正確に対応しており、本址埋没中の早い段階で焚火等の行為があり、その後埋没が続いた状況がうかがえる。		
出土状況	覆土中から土器と石器が出土した。まとまった状況はなく、床面からは少ない。		
遺物・時期等	土器 92 kg、石器 76 点。土器は実測図 27 点(第12 図 1～27)、拓影 61 点(第23・24 図 201～261)。縄紋中期後葉が主体で、それより古(24～27・242～249)と中期末(250～261)が混在する。器形は深鉢の他に釣手土器(19)がある。21 は外面に赤彩が残る胴部破片で、壺や孔罎付土器の可能性もある。石器は磨石類、打製石斧、磨製石斧、砥石、横刃形石器、削器など。図示 6 点(第32～34 図 15・24・33～36)。本址の時期は出土土器から縄紋中期後葉と考える。		

第1表 住居一覧表(1/3)

16住	位置	A4TW82～86 17住東側を切る	壁	西側10cm、東側削平で残5cm（トレンチ南北壁面の土層で見ると40～60cm）	
	平面	直径約4.8mの円形と推定	炉	中央部東寄り直径1.3m深さ0.3mの円形、内部に20cm大の礫3点と焼土面	
	床面	地山を用い平坦で硬い	周溝	東西壁下で深さ10cm P 3基検出。P2深さ50cm以上。柱穴か不明。	
	検出状況	本址一帯は良好な遺物包含層と深い造成土が入り混じるため、重機で深く削り込んだところ床面状の平坦な黄色土（後に17住床面と判明）を検出。その東方で黄色土を切る明褐色土の落ち込みを確認、さらに東側で落ち込みと地山との境界が現れ床面範囲を確認。炉は床に切り込む円形の穴に20cm大の礫3点と焼土面があり、灰石層のお跡と判断。			
	出土状況	床面付近から多量の遺物がまぎらまぎら出土（第10図下段）。完形土器はないが遺存状況の良いものが多い。床に接し大形の丸石と楕円の石各1点が並び置かれていた。石材は安山岩で前者①は20.5kg、後者は53kg、加工・使用痕はないが意図的な搬入、設置であろう。			
17住	位置	A4TW87～91、東を16住、北西を18住が切る	壁	西側でわずかに残存、壁高20cm（トレンチ南壁土層では40cm）	
	平面	が位置から直径7m前後の円形と推定	炉	東寄り。一部区域外。短辺80cm、長辺90cm以上の長方形石囲か推定。	
	床面	地山を用い平坦で硬い、西側に焼土面2箇所。	周溝	西壁下、深さ10cm P 1基検出。柱穴か判断不能	
	検出状況	遺物包含層上りまで重機掘削していたが、造成土の深い部分の掘削深度を下けたところ床面状の平坦な黄色土出現。入りで掘り下げた遺物包含層①～⑧では近似レベルで多数の大形土器片が出土し、その直下で床状の黄色土の平坦面を確認。この平坦面と先の黄色土面が同一で遺物出土もあったので竪穴建物と判断。遺物取り上げ後、床面中央部で石囲かを確認。			
	出土状況	床面直上から多量の遺物がまぎらまぎら出土（第10図下段）。土器に完形品はないが大形破片が多い。			
18住	位置	A4TW90～92、17住北西を切る	壁	西30cm、17住と重機の東と南15cm前後（トレンチ北壁土層では50～60cm）	
	平面	円形と推定。確認範囲東西3.3m、南北0.8m	炉・P	中央部にビット1基。柱、柱穴か不明。	
	床面	地山を用い平坦で硬い	周溝	西側1/3を除き壁下に深さ10cm前後	
	検出状況	17住床面を西側へ追求し、北西部を緩い円弧状に切る遺構を検出。円弧は西側に延びて調査区北壁下へ続く。竪穴建物の一部と想定、サブトレンチで下部の硬化した床面を確認、竪穴建物と認定。			
	出土状況	覆土中から少量の土器と石器が散発的に出土。			
19住	位置	A3TW103～105、土3・4に切られる	壁	不明	
	平面	不明	床面	地山を用い平坦だが軟弱	
	炉・P	が不明。ビット3基。柱穴に相当するか判断できない。			
	検出状況	A3T東半分の遺物包含層1・2Gの下部で平坦な地山面を確認。軟弱だが平坦で、切り込む土坑やビットが明瞭にみえたので竪穴建物の床面と判断。西は1・3土に切られ、東は調査区外へ続く壁はまったく不明。竪穴建物の確認は不十分。			
	出土状況	床面付近出土の遺物を本址に帰属させた。土器と石器があるが出土状況は散発的でまぎらまぎらなものはない。			
20住	位置	A4T西端W99、15住が東を切る	壁	不明	
	平面	不明	床面	平坦だが硬くない	
	炉・P	が不明。ビット2基、単独ビットとしたが本址に伴う可能性もある。			
	検出状況	A4T西端と15住間のわずかな範囲の北側2/3ほどで、遺物包含層下に平坦な地山面が現れ、その面でビット2基を検出。地山面に硬さはなかったが平坦で、15住床面と近似したレベルだったので、15住に切られ、他は調査区外になる竪穴建物の存在を想定。壁がまったく不明で竪穴建物としての確認は十分ではない。			
	出土状況	本址出土品として把握した遺物はないが、本址想定範囲の上部検出面・包含層からわずかな土器片が出土。			
21住	位置	B1T東端E61、22住の東を切る	壁	不明	
	平面	不明	床面	平坦だが硬さはない	
	炉・P	不明			
	周溝	不明			
	検出状況	B1T東端部で22住の床面を東方に追求したところ、トレンチ東端から80cmほど手前で急に硬さが失われ、床面の状況が一変。トレンチ南壁面で22住を切る土層を認め、その位置から東側の竪穴建物（本址）であると判断。			
出土状況	覆土中から少量の土器が散発的に出土。土器の総重量は0.4kg。石器にめばしいものはない。				
遺物・時期等	土器の実測図点（第16図82・83）、拓影1点（第26図349）を図示。82は縄紋中期中葉、83は前期末に属し混入と考える。本址の時期は遺構の重復関係と出土土器から縄紋中期後葉と推定する。				

第1表 住居一覧表(2/3)

22	位置	B1TE57-60、21住が東、23住が西を切る	壁	東西を切られ不明
	平面	東西を切られ不明	炉	西寄りに1.3×0.9mの長方形石囲炉。円形や不整形長方形の扁平な石材で構成。短い南辺のみ扁平平面が水平に置かれ、他はすべて直立するように埋設。内部に被熱面や焼土層はなかった。
	床面	地山の再堆積ローンをを用い平坦で硬い。全域に厚さ0.5cmほどの炭層が広がるが、焼土や被熱面はみられなかった。	周溝	不明 P 2基検出。柱穴が判別できない。
	検出状況	重機により耕作土を除去し、下部の発達した遺物包含層にグリッドを設定して人力で掘り下り。2~4Gにかけて下層に平面的に広がる炭層とその直下の硬く良好な床面、石囲炉らしき礎の配列を確認した。		
出土状況	多量の遺物が出土。床面から比較的少なく、覆土上・中層相当のレベルが多い。遺存状況は良好だが完形品はない。			
遺物・時期等	土器7.9kg、石器42点。土器は実測図5点(第15図77~81)、拓影39点(第26・27図350~388)を図示。縄紋中期後葉に属するものが主体で、それより古(364~380、381~388も若干古の可能性)が混じる。ミニチュア土器1点(第22図土-7)。石器は磨石類、打製石斧、砥石、削器、掻器など。図示1点(第34図39)。本址の時期は出土土器からみて縄紋中期後葉と推定する。			
23	位置	B1TE53-56、22住の西、24住の東を切る	壁	掘り込みは深く、隣接の22・24住より床面レベルが40cm低い。壁高はトレンチ南壁土層でみると60cm以上あったことがわかる。
	平面	直径5~6mほどの円形にないと推定	炉・P	不明 P 3基。P2・3は深し。全体位置が不明で柱穴が不明。
	床面	地山の硬直り黄色土を用い、平坦だが硬くない	周溝	なし
	埋塞	西壁から30cmほど内側。径70cm、深さ30cmの不整形円形の掘り方に口径30cmの深鉢の底部を欠いて逆位に埋設し、扁平な石を上部に置き蓋石としていた。内部は地山の黄色土がブロック状に混じる褐色土が詰まり、上部に数cmの空隙があった。		
検出状況	22住床土の炭層を西方に追求し、約70cmほど西で床を切る明褐色土の大きな落ち込みを確認。同レベルでさらに西方を追求すると再び地山のローンを硬くした床面(後に24住と命名)が現れ、その間に竪穴建物があることが判明した。			
出土状況	覆土中から多量の遺物が出土し、床面からは多くない。完形品1点(92)以外にまとまったものは少ない。92は東壁から約1mほど内側で、床面より10cm以上浮いて出土。22住由来の可能性もある。91も同様に24住由来の可能性。			
遺物・時期等	土器13.2kg(埋塞含む)、石器71点。土器は実測図10点(第16図84~93)、拓影38点(第27・28図389~426)を図示。縄紋中期後葉が主体で、それより古(91・92・420~425)と中期末(426)が混じる。91は24住94と同一個体と考えられ、同住由来の可能性もある。土偶の胴部1点(第22図土-1)。石器は石鏃、磨石類、打製石斧、砥石、削器、掻器など。図示11点(第32・33図1~3、11・12・16~20・31)。本址の時期は出土土器からみて縄紋中期後葉である。			
24	位置	B1TE51-53、23住が東側を切る	壁	西壁のみ確認。高さ25cm。トレンチ南壁土層でみると60cm近くある。
	平面	不明(直径3.2m以上は正確)	炉・P	不明。ピット1基。断面が袋状で深いのが柱穴に相当するかは不明。
	床面	地山を用い平坦でやや硬い	周溝	なし
	検出状況	B1T東部中央寄り遺物包含層8Gの東端で地山を掘り込み明褐色土の落ち込みを確認。また23住西側の6Gで同住に切られる床面を確認。床面は東方の22住床面と同レベルだったためその続きとも考えたが、同住の床面に広がる炭層がこちらには稀無であり、また22住の平面規模が大きくなりすぎるので、落ち込みは別の竪穴建物と判断した。		
出土状況	床面付近から散発的に出土しているが、量は多くない。			
遺物・時期等	土器1.9kg、石器21点。土器は実測図3点(第16図94~96)、拓影8点(第28図427~434)を図示。縄紋中期後葉に属するものが主体で、それより古(432~434)が混じる。石器は磨石類、削器など。図示はない。本址の時期は出土土器と遺物の重複からみて縄紋中期後葉と推定する。			
25	位置	B2TE90~92、22・23土を切る	壁	傾斜はかなり緩い。壁高はトレンチ北壁土層で80cm近くある。
	平面	不明(トレンチ北壁面で3.4m)	炉・P	不明
	床面	地山を用い平坦だが硬さはない	周溝	なし
	検出状況	B2Tは耕作土と直下の硬直土、その下部の黒褐色土(遺物包含層の下層相当)がほとんど遺物を含まなかったので重機で削り込み、地山(再堆積ローン)質土、礫微量土直上から人力で検出。竪穴建物1棟と、接する土坑3基(21~23土)を確認。		
出土状況	微量の土器と石器が覆土中から出土。床面上には中小礫8点と小形深鉢の破片がまとまって遺存。			
遺物・時期等	土器0.4kg、石器24点。土器は実測図1点(第16図97)、拓影3点(第28図435~437)を図示。すべてが縄紋前期末に属すると考える。石器は削器、石鏃など。図示はない。本址の時期は出土土器からみて縄紋前期末と推定する。			
26	位置	A5TW51・52、P53に切られる	床面	地山そのままで凹凸あり軟弱
	平面	不明(トレンチ北壁面で1.97m)	炉・P	不明。ピットなし。
	床面	不明(トレンチ北壁面で1.97m)	周溝	なし
	検出状況	A5Tは遺物包含層まで重機で掘削、地山(礫をほとんど含まない再堆積ローン質土)直上から人力で削り込み、大小の落ち込みを検出。規模から本址を竪穴建物とした。掘り下げの結果、本址は大形の土坑であった可能性もある。		
出土状況	少量の土器と石器が覆土中から出土した。			
遺物・時期等	土器は数点の小片(総重量0.3kg)、石器は1点のみ。土器は拓影3点(第28図438~440)を図示。縄紋中期末(438・439)と後期(440)に属する。石器は打製石斧で、図示1点(第32図21)。本址の時期は出土土器からみて縄紋中期末と考えるが確かではない。			

第1表 住居一覧表(3/3)

No	図 No	地区・位置	平面形	規模(cm)			新旧関係		遺物等	その他・備考
				長径	短径	深さ	旧	新		
1	7	A3T-W108	円	136	(90)	93	土3	P13	土器 23.1kg、石器 40点	図示：土器67点、石器6点
2	7	A3T-W109	不整形円	96	(68)	15		P43	土器 609g、石器 1点	図示：土器2点
3	7	A3T-W106	円?	(151)	(88)	15		土1・P3	なし	
4	7	A3T-W102	楕円	90	63	75		19住	土器 2095g	図示：土器2点
5	7	A3T-W109	楕円?	110	(28)	32			なし	
11	9	B1T-E48	不整形円	124	115	29			土器 153g、石器 1点	図示：土器1点
12	9	B1T-E47	楕円?	(73)	(58)	47		P25	土器 238g	図示：土器3点
13	9	B1T-E46	円?	(68)	86	57		P27	土器 1572g、石器 2点	図示：土器6点
14	9	B1T-E44	不整形円	81	(65)	50		P327	土器 53g	図示：土器1点
15	9	B1T-E40	楕円?	80	(26)	61			土器 182g	2次調査エリア
16	9	B1T-E39	円	78	74	61		P35	土器 25g	2次調査エリア
17	9	B1T-E38	円?	38	(19)	39			なし	2次調査エリア
21	10	B2T-E94	円?	100	(68)	16			なし	
22	10	B2T-E89	円?	(90)	(70)	56			25住 土器 9g	図示：土器1点
23	10	B2T-E91	円?	108	(40)	20			25住 土器 27g、石器 3点	

第2表 土坑一覧表

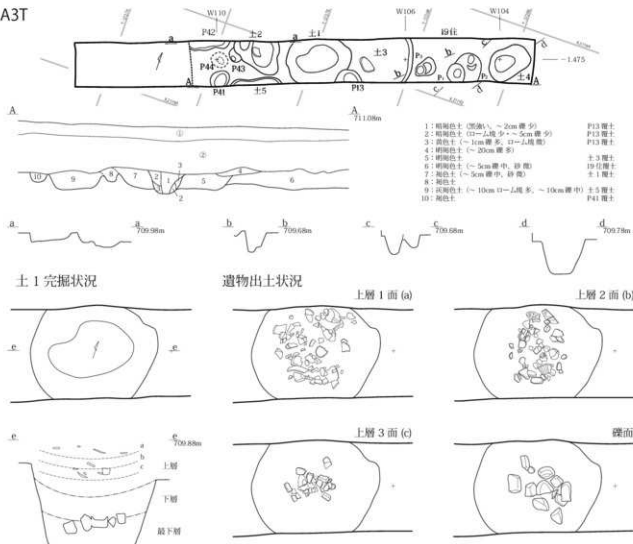
6～10・18～20は欠番

No	図 No	地区・位置	平面形	規模(cm)			新旧関係		遺物等	その他・備考
				長径	短径	深さ	旧	新		
1	8	A4T-W76	円	25	25	18			石器 2点	
2	8	A4T-W76	円	38	35	19			土器 121g	図示：土器1点
3	8	A4T-W75	円?	30	(15)	18			土器 52g	図示：土器2点
4	8	A4T-W73	円	36	35	31			土器 123g、石器 1点	図示：土器1点
5	8	A4T-W81	円?	22	(11)	14			土器 9g	
6	8	A4T-W81	円?	68	(43)	5			なし	
7	8	A4T-W80	円	35	34	6			なし	
8	8	A4T-W78	楕円	42	30	12			なし	
9	7	A4T-W93	円?	(43)	(35)	16		15住	土器 7g	
10	7	A4T-W93	不整形円	51	45	23			なし	
12	8	A4T-W92	円?	44	(24)	10		18住	なし	
13	7	A3T-W106	円?	56	(26)	39		土1・3	土器 99g、石器 1点	
14	7	A4T-W99	不整形	(60)	(40)	18		20住	なし	
15	7	A4T-W99	円?	(40)	(30)	27		20住	なし	
21	9	B1T-E49	楕円	61	(28)	31			なし	
22	9	B1T-E50	未掘						土器 9g	
23	9	B1T-E50	不整形	57	23	27			土器 27g	
24	9	B1T-E47	円?	44	(18)	12		P25	なし	
25	9	B1T-E46	円	(79)	70	32		土12-P24	土器 76g、石器 1点	
26	9	B1T-E47	未掘						土12	なし
27	9	B1T-E45	円?	(48)	58	29		土13	土器 115g	
28	9	B1T-E42	楕円?	(50)	68	10			なし	2次調査エリア
29	9	B1T-E44	楕円	66	(57)	57		土14?	なし	
30	9	B1T-E41	円	46	42	18			土器 11g	2次調査エリア
31	9	B1T-E41	円?	38	(24)	27			なし	2次調査エリア
32	9	B1T-E44	円?	42	(20)	58		土14?	なし	
33	9	B1T-E40	円?	24	(22)	16			なし	2次調査エリア
34	9	B1T-E39	円	25	15	11			なし	2次調査エリア
35	9	B1T-E39	円	30	24	15		土16	なし	2次調査エリア
41	7	A3T-W110	円?	42	(30)	21			土器 135g	図示：土器1点
42	7	A3T-W110	楕円?	88	(19)	18			土器 14g	
43	7	A3T-W109	円?	28	(18)	9		土2	なし	
44	7	A3T-W110	未掘						なし	
51	10	A5T-W47	円?	68	(49)	38		P54	土器 12g	
52	10	A5T-W45	円	23	18	50			土器 5g	
53	10	A5T-W50	楕円?	(87)	81	49		26住	土器 32g	
54	10	A5T-W46	円?	28	(18)	47		P51	土器 3g、石器 3点	
55	10	A5T-W45	円	33	31	22			なし	

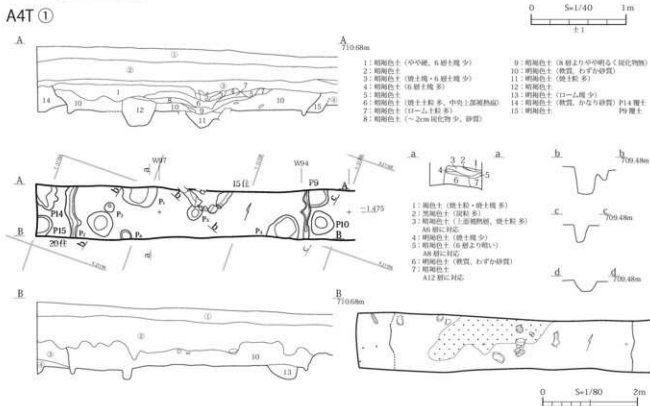
第3表 ビット一覧表

11・16～20・36～40・45～50は欠番
両表とも「旧」は「本址より旧」の略、「新」も同様

A3T

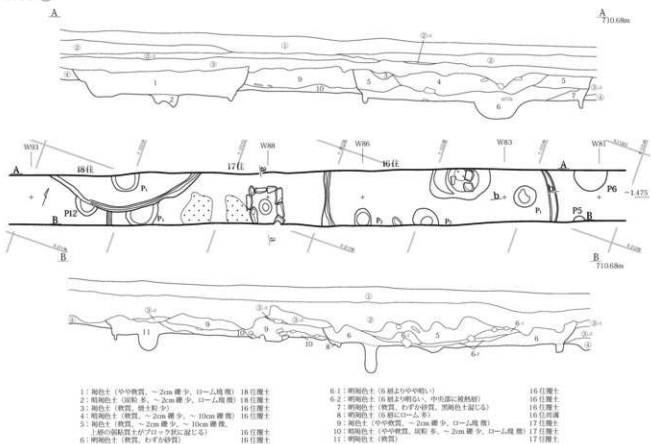


A4T ①



第7図 遺構(1)

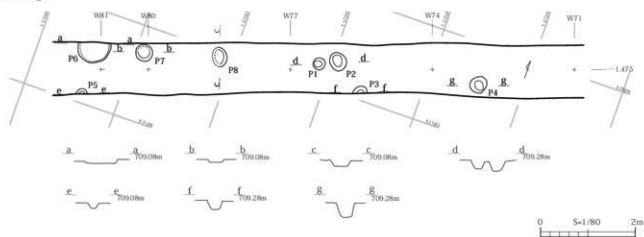
A4T ②



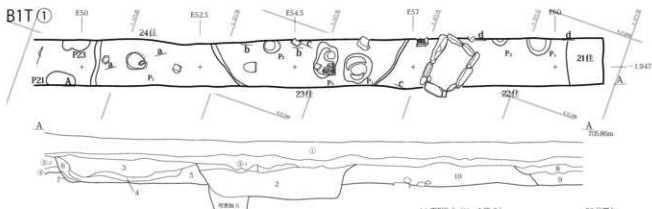
17 住層検出状況



A4T ③



第8図 遺構(2)



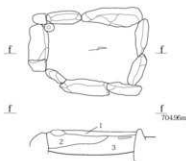
埋葬出土状況



- 1: 黄褐色土 (1~1cm 砂粒混、砂質)
 2: 赤色土 (砂質、礫混入) 地
 3: 黄褐色土 (1~1cm 砂粒混、砂質) 地

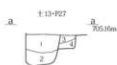
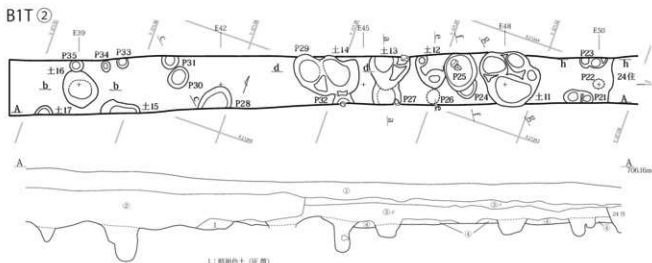
0 5=1/40 1m
 埋蔵・22住

22住炉出土状況



- 1: 黄褐色土 (石子中心砂質)
 2: 褐色土 (中砂混、軟質)
 3: 黄褐色土 (中砂混、硬質多)

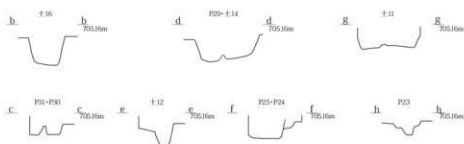
- 1: 黄褐色土 (1~1cm 砂少)
 2: 黄褐色土 (軟質、~2cm 礫中)
 3: 黄褐色土 (軟質、~2cm 礫少)
 4: 黄褐色土 (軟質、硬質、1~1cm 礫、1~1cm 砂少)
 5: 黄褐色土 (軟質、~2cm 礫、1~1cm 砂少)
 6: 褐色土 (1~1cm 礫少)
 7: 褐色土 (1~1cm 礫多)
 8: 黄褐色土 (軟質、~1cm 礫層)
 9: 褐色土 (8層より上層)、1~1cm 礫中)
 10: 黄褐色土 (軟質、~1cm 礫少、表面に礫混)
- 23住層土
 23住層土
 24住層土
 24住層土
 24住層土
 24住層土
 21住層土
 21住層土
 22住層土



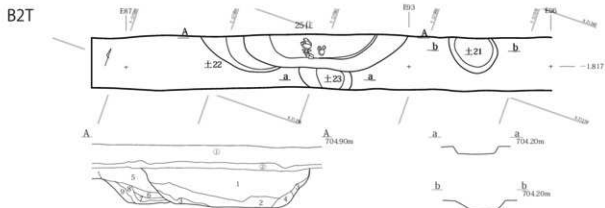
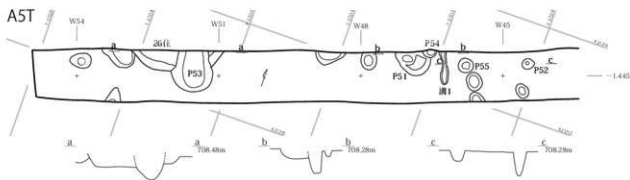
- 1: 黄褐色土 (軟質、1~1cm 砂) ±13層土
 2: 黄褐色土 (黄褐色礫多、礫混入) ±13層土
 3: 褐色土 (礫混、1~1cm 砂少) P27層土
 4: 黄褐色土 (0.5~0.25cm、軟質) P27層土

0 5=1/80 2m

1: 黄褐色土 (硬質)

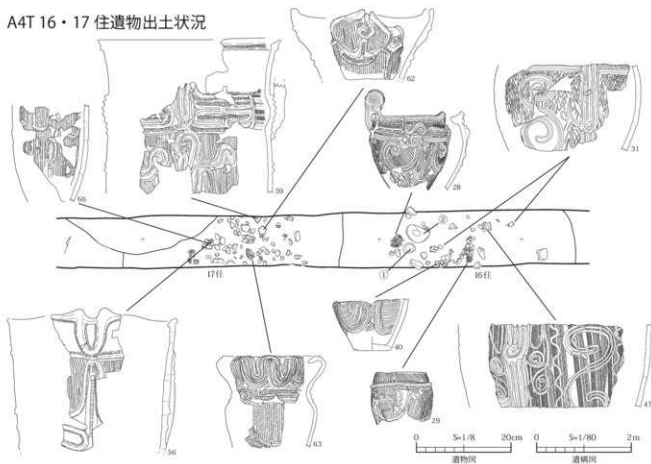


第9図 遺構(3)



- | | |
|--------------------------------------|----------------|
| 1: 褐色土(中砂質)、微孔、黄褐色土層多、~3cm(厚薄) 25位層土 | 6: 黄褐色土(砂~土層少) |
| 2: 褐色土(砂~土層中、黄砂少) 25位層土 | 7: 黄褐色土(砂~土層少) |
| 3: 褐色土(砂~土層多) 25位層土 | 8: 黄褐色土(砂~土層多) |
| 4: 黄褐色土(微孔、黄褐色土層多、~3cm(厚薄)) 25位層土 | 9: 砂~土層結構 |
| 5: 黄褐色土(図本土層3よりわずかに粗い) | |

A4T 16・17 住遺物出土状況



第10図 遺構(4)

第3節 遺物

1 土器

(1) 概要

総量は144.1kg、うち遺構に伴うものが87.2kg、他は遺物包含層、検出面、排土等の出土である。縄紋土器と弥生土器があり、量的には前者がほとんどで後者は0.78kgにすぎない。縄紋土器の時期は中期後葉が主体で中期中葉と中期末が伴い、わずかに前期と前期末～中期初頭、後期がみられる。土器の提示は図化可能なものは実測図、破片は拓影で掲載した。ただし拓影は、紋様構成がわかるものを中心に出土遺構・トレンチの時期を探る材料となるものに絞った。掲載順は、縄紋土器は遺構毎とし、遺物包含層や検出面等のものはトレンチごとにまとめ、通し番号とした。弥生土器は実測図と拓影をまとめて掲載し、別番号とした。

遺構出土の土器は、総体としては遺構毎に時期的なまとまりがあって、出土した遺構の埋没時期を示すと考える。ただし、それより古いものが混入する事例がすべての竪穴建物でみられ、A4Tの15～17住で顕著だった。混入品は小破片がほとんどだったが、B1Tの23住では第16図92は完形品であるにもかかわらず同住の他の土器より編年的に古く、同住埋没時に隣接する22住から由来したと推定される事例もあった。

(2) 縄紋土器

ア 前期

A4T 遺物包含層 7G 出土品（第30図504）は口縁部付近に半截竹管による波状の平行沈線が2条描かれるもので、紋様構成から前期に遡るものとする。胎土に繊維は含まれていない。

イ 前期末～中期初頭

三角形を基調とする陰刻や沈線、細かい竹管による円形刺突、細い浮紋と竹管の押しきなどの紋様のものを抽出した。縄紋のみの破片も、伴出土器や器肉の厚さ、胎土などの観察からここに含めた。総量は少ない。遺構に伴うものはB2Tの25住（97・435～437）と土22（481）で、いずれも出土遺構の時期を示す。遺構外ではA4T 遺物包含層 7G（505）、B2T 検出面（562～565）、混入品としてB1Tの21住覆土（83）から出土している。

ウ 中期中葉

竪穴建物の時期を示すものはなかったが、検出面や遺物包含層、遺構覆土からの出土があり、A4Tの竪穴建物が集まる範囲からは特に多かった。実測図75・76・155～157・159、拓影244・247・248・298～302・327～330・364～374・476・501・506～511・521・522などが相当する。編年上では協会4～7期と考える。大きい破片やまとまった個体があり、調査地の周囲に当該期の遺構が存在する可能性を示す。

エ 中期後葉

遺構内や包含層、検出面から主体的に出土し、今回調査した多くの遺構の時期を示す。後葉の中でも時期幅があり、まとまった資料でみると、協会9期（17住53～73・310～326）、同10期（22住77～81・350～363）、同10～11期（15住1～19・201～241、16住28～48・262～294）、同11期（23住84～90・397～414）などに相当すると考える。17住出土品を除き、主体となる樽形基調の外形を呈し唐草紋で飾られる土器は、隆帯で描く唐草紋の間隙を綾杉状や斜行の沈線で充填するものと、細かい条線を地紋として沈線で唐草紋を描くものの二者がみられる。

オ 中期末

A3Tの土1内と周辺の遺物包含層から多量に出土した（土1：98～132・441～472、周辺の包含層や検出面等141・142・144～149・491～493）。それ以外の遺構やトレンチの遺物包含層にもわずかに伴う（250～261・306～309・344～348・426・438・439・530・553・560）。樽形と胴部中位が

くびれ気味の形態の2種の深鉢が中心で、後者の口縁端には大形の突起(114・116)、橋状把手(117・118・121・123)が付されるものがある。双耳壺(132・147)もみられる。紋様は、前者は退化した粗雑な唐草紋(98～106)、後者は細かい縄紋と沈線区画が主体(107～119)となるなど、異質な要素が並存するが、土1の出土状況からは廃棄に時間差を認めるのはむずかしい。協会14期に相当すると考える。

カ 後期
第28図440(26住)、第30図497・498(A4T包含層)が該当する。小破片がわずかに出土したのみで、遺構の時期を示すものではないと考える。

(3) 弥生土器

A4Tの遺物包含層5～7Gと検出面、A5Tの検出面から散発的に出土した。すべて破片で、内訳は壺形土器25点(326g)、甕形土器28点(316g)、器種不明23点(138g)である。実測図1点(第11図弥1)、拓影16点(第11図弥2～17)を示した。弥1～8・14～16が壺形土器、弥9～13・17が甕形土器の破片である。壺形土器には縄紋、篋描きの太い沈線紋、甕形土器には条痕紋や口唇部に刻みが行われる。第31図543も弥生土器の可能性がある。

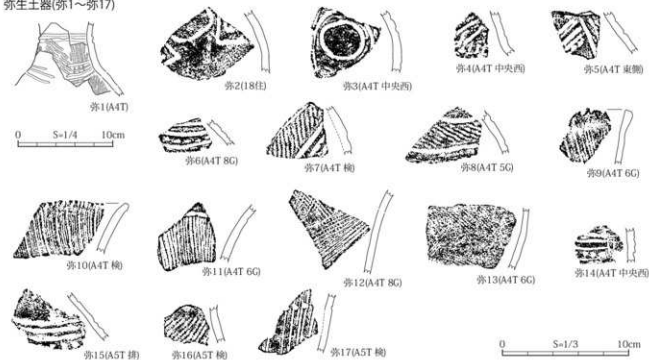
2 土製品(第22図)

土偶(土-1～土-4)、ミニチュア土器(土-6～土-9)、匙形土製品(土-5)がある。土-10も土偶の胴部であろう。土偶はすべて破片で、胴部(土-1・10)、腕(土-2)、脚部(土-3・4)がみられる。匙形土製品は匙部の半分を欠くが、柄は完存し中実で、貫通孔とその脇に未貫通の小孔が焼成前に穿たれている。

【参考文献】

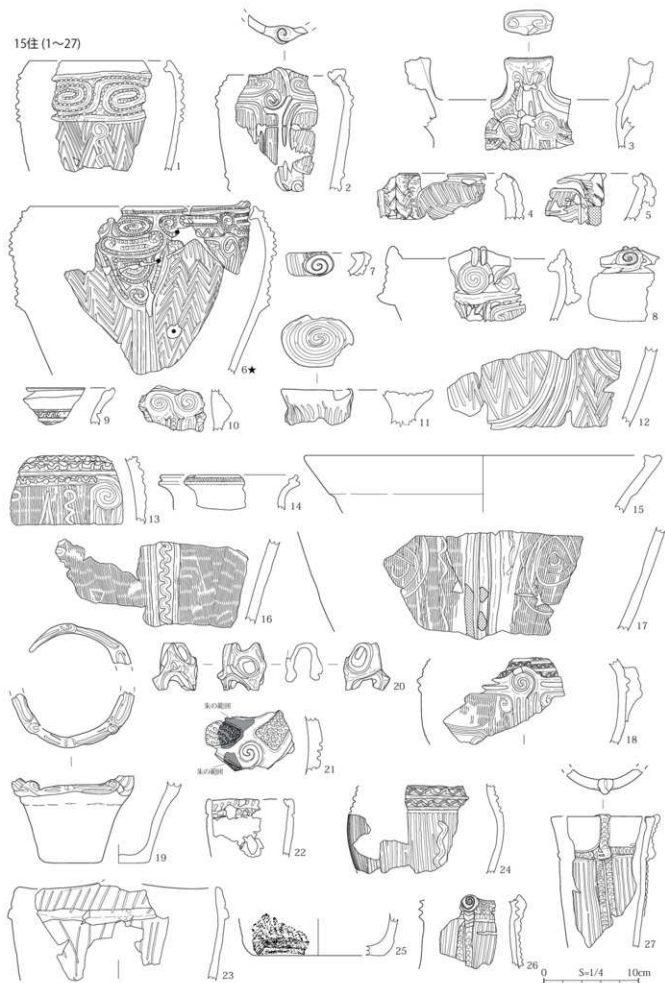
宮崎朝雄・綿田弘実 2013「長野県における縄文時代中期土器の編年と動態」『一般社団法人日本考古学協会2013年度長野大会 研究発表資料集 文化の十字路口 信州』2013年度長野大会実行委員会
長野県埋蔵文化財センター 2019『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 120 山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡』

弥生土器(弥1～弥17)



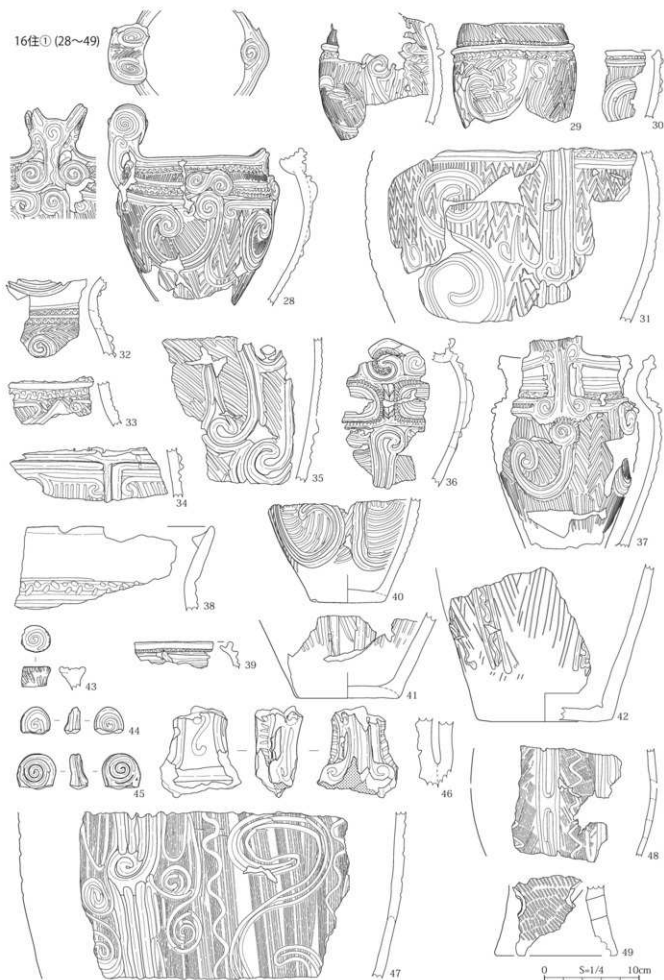
第11図 弥生土器

15住 (1~27)

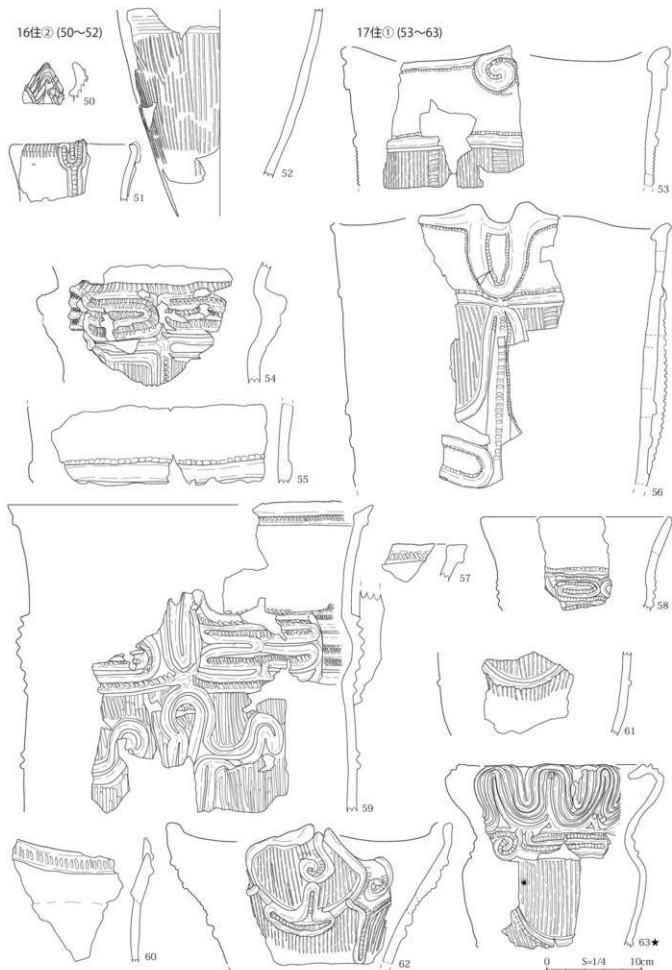


第12図 縄紋土器実測図(1)

16住① (28~49)

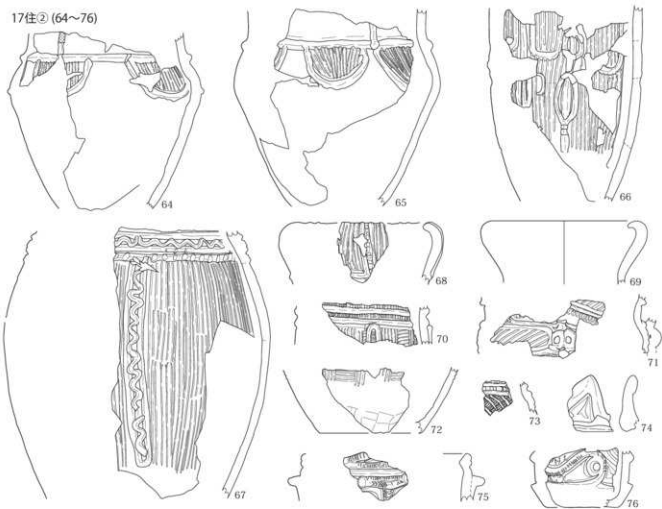


第13図 縄紋土器実測図(2)

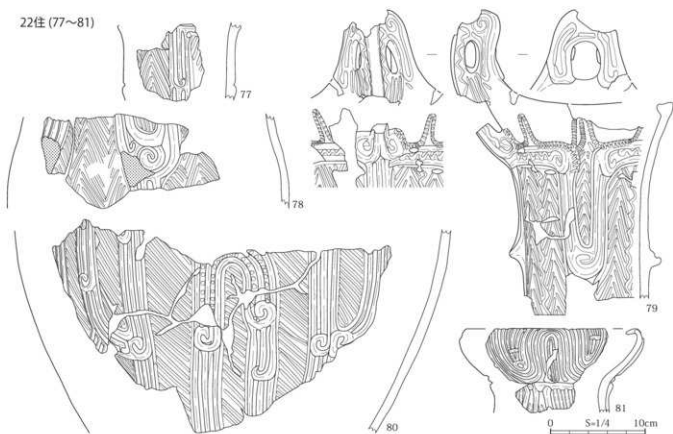


第 14 図 縄紋土器実測図 (3)

17住② (64~76)

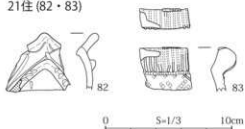


22住 (77~81)

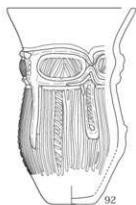
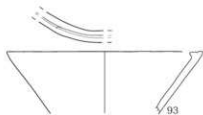
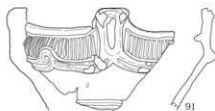
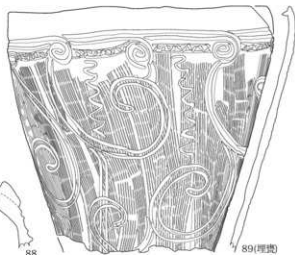
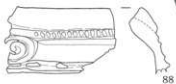
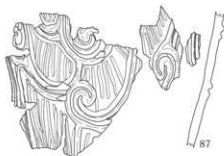
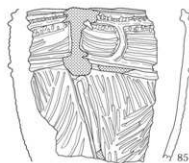
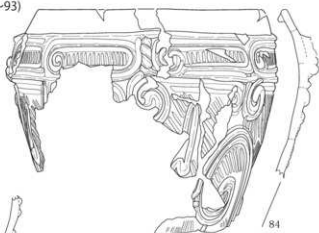


第15図 縄紋土器実測図(4)

21住 (82・83)



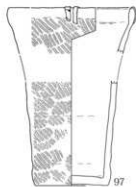
23住 (84~93)



24住 (94~96)



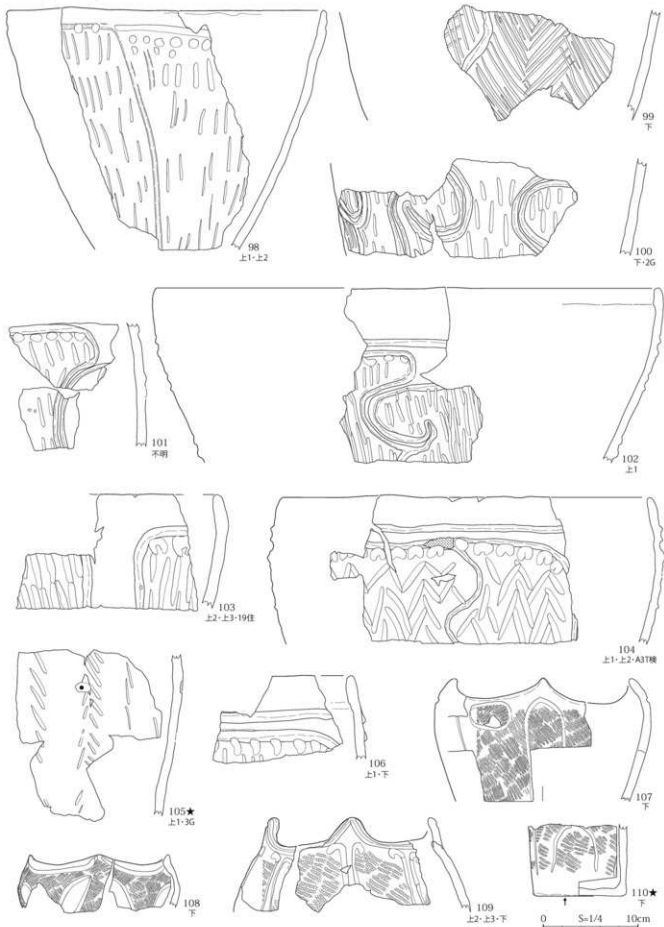
25住 (97)



0 S=1/4 10cm

第 16 図 縄紋土器実測図 (5)

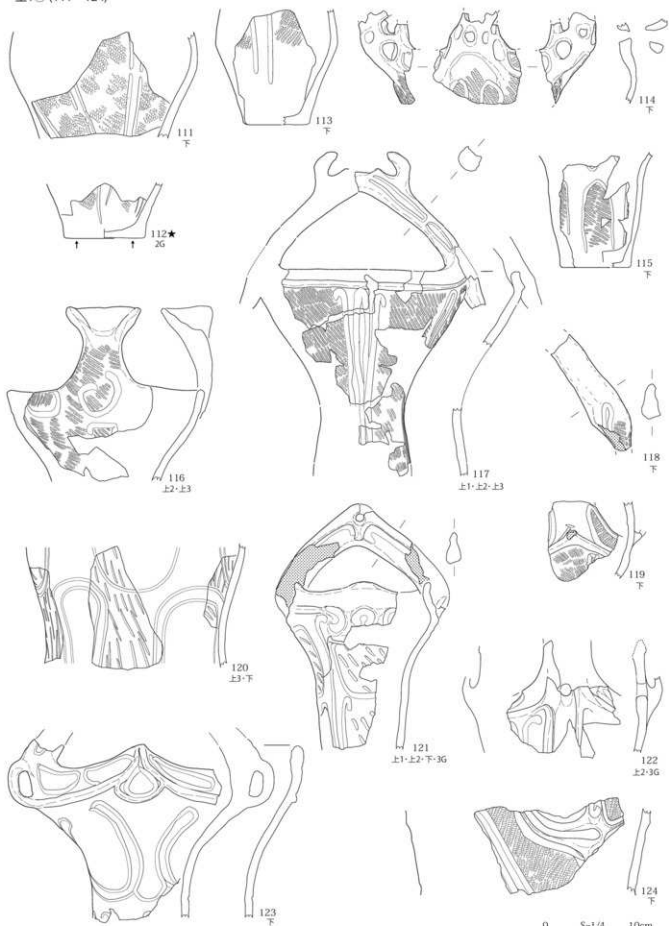
土10 (98~110)



第17図 縄紋土器実測図(6)

土器番号下段は出土層位

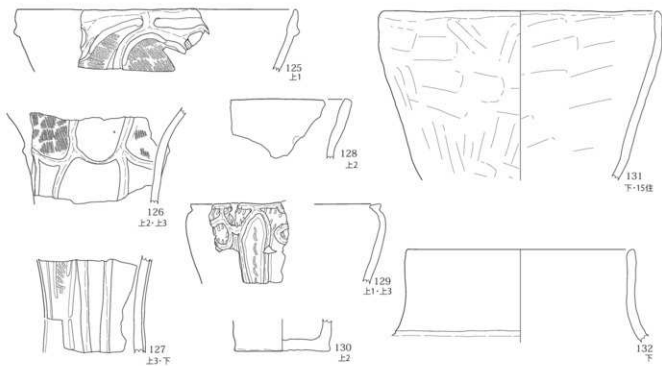
土1② (111~124)



第 18 図 縄紋土器実測図 (7)

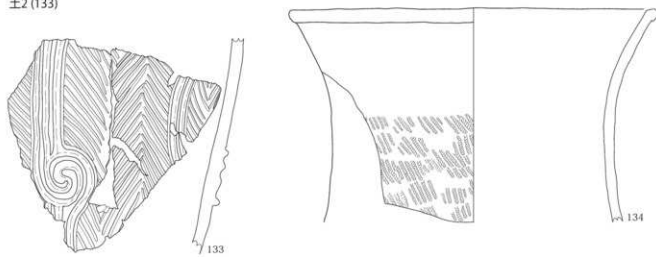
0 S=1/4 10cm
土器番号下段は出土層位

±1③ (125~132)

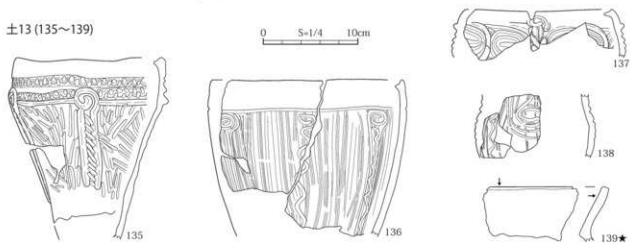


±4 (134)

±2 (133)

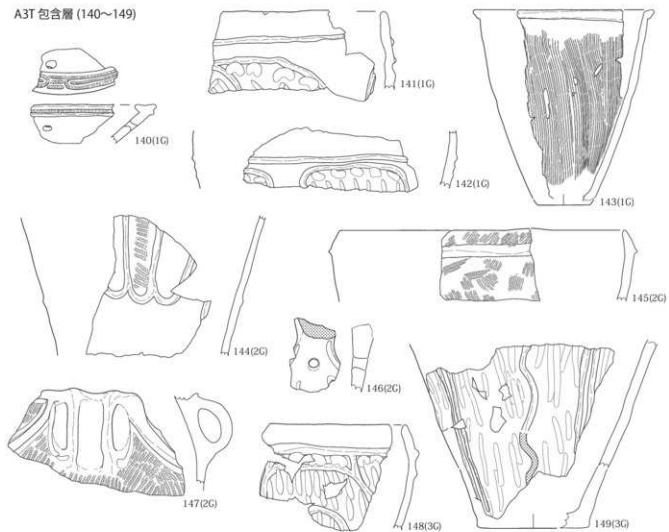


±13 (135~139)

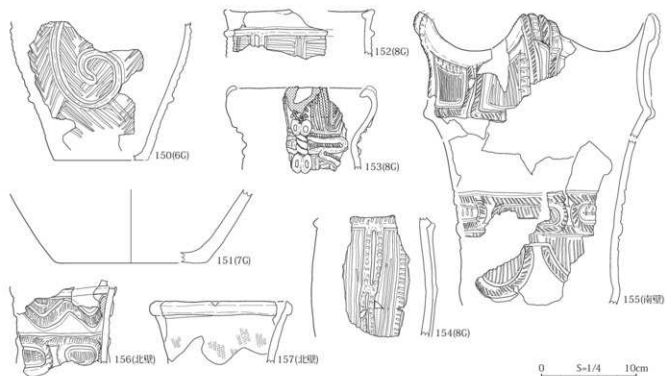


第 19 図 縄紋土器実測図 (8)

A3T 包含層 (140~149)



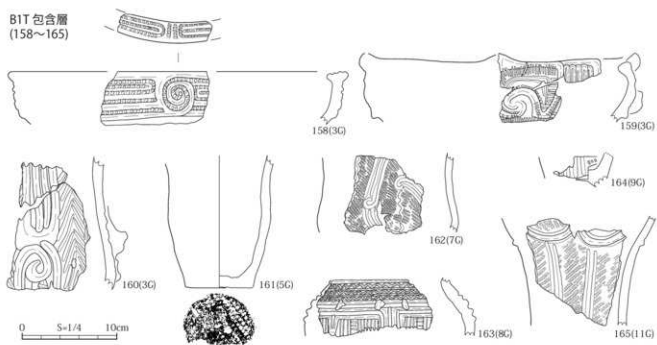
A4T 包含層 (150~157)



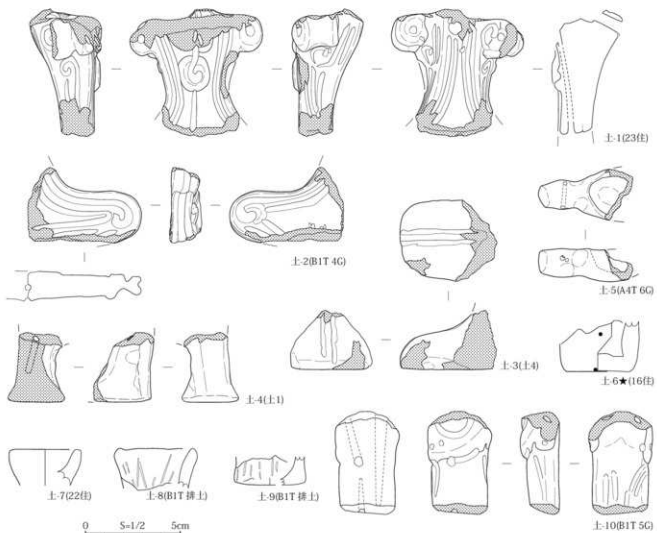
0 S=1/4 10cm

第 20 図 縄紋土器実測図 (9)

B1T 包含層
(158~165)

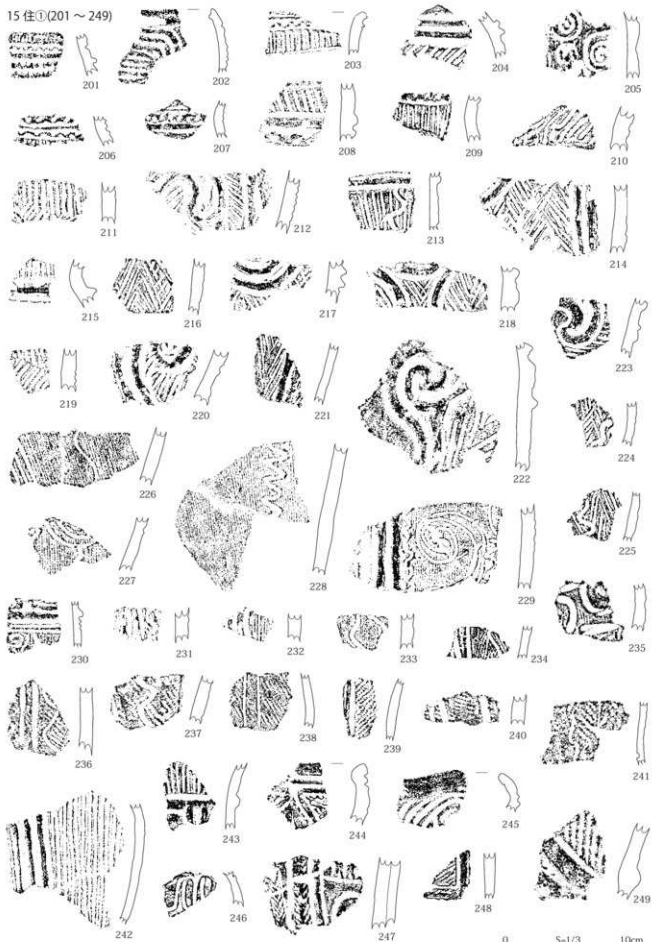


第 21 図 縄紋土器実測図 (10)



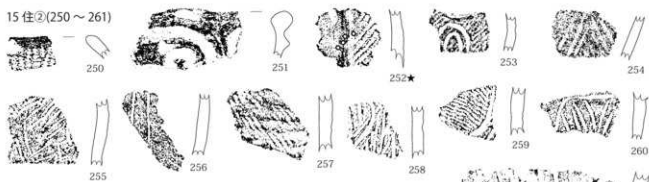
第 22 図 土製品

15 住①(201~249)

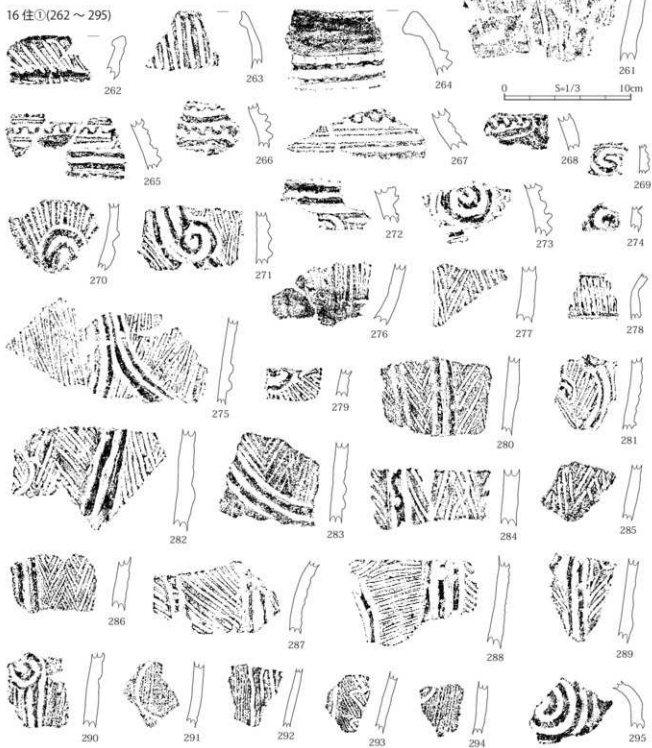


第 23 図 縄紋土器拓影(1)

15 住②(250~261)

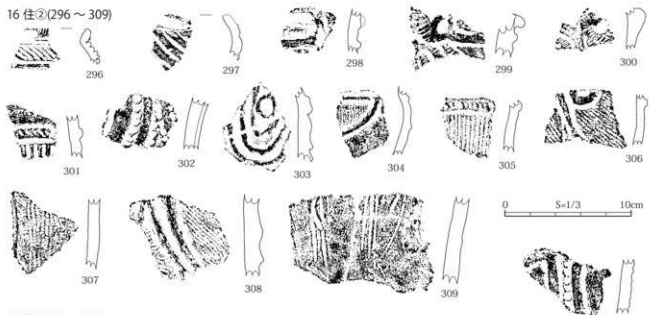


16 住①(262~295)

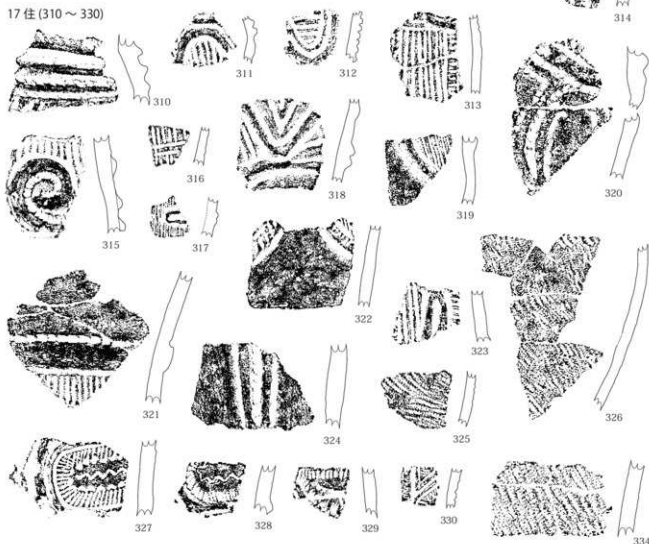


第 24 図 縄紋土器拓影 (2)

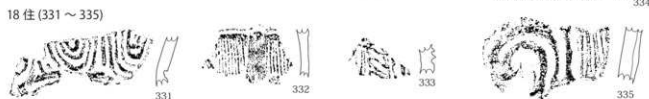
16 住②(296~309)



17 住(310~330)

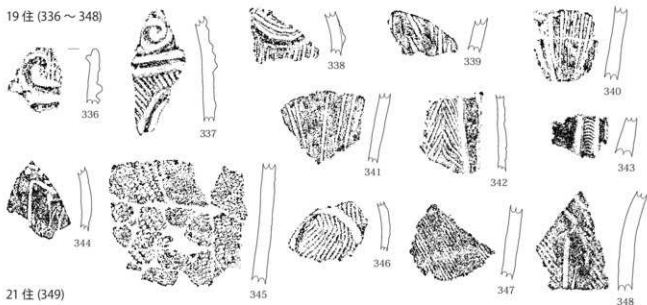


18 住(331~335)

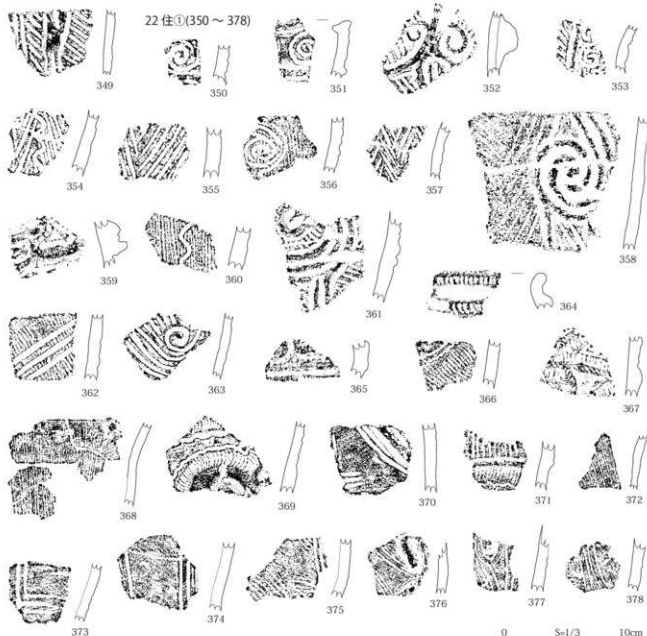


第 25 図 縄紋土器拓影 (3)

19住(336~348)



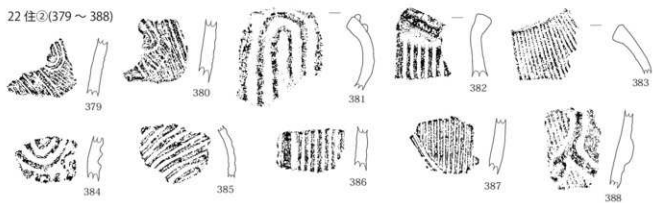
21住(349)



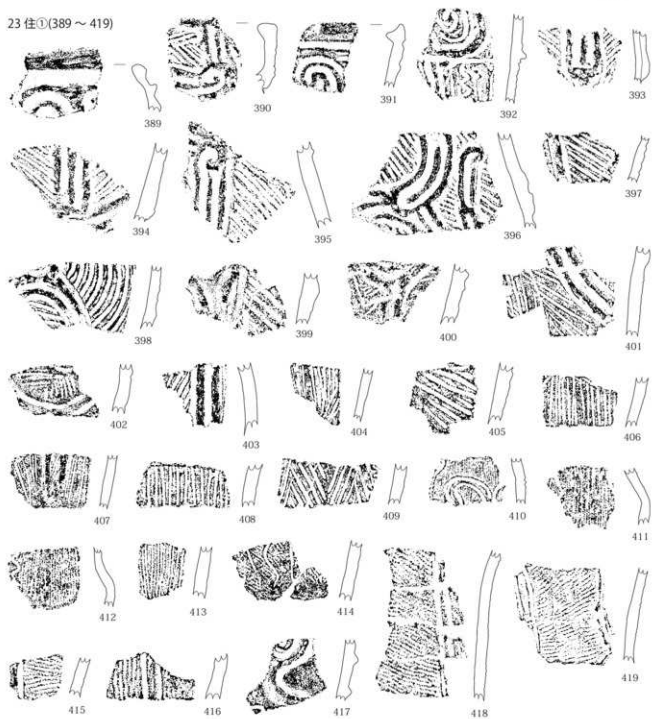
0 S=1/3 10cm

第26図 縄紋土器拓影(4)

22 住②(379~388)



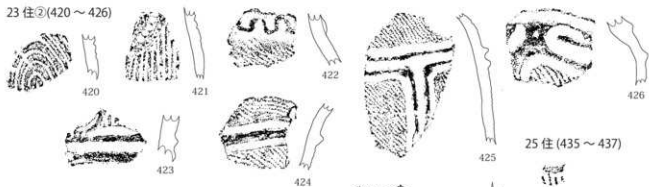
23 住①(389~419)



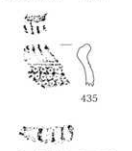
0 5-1/3 10cm

第 27 図 縄紋土器拓影 (5)

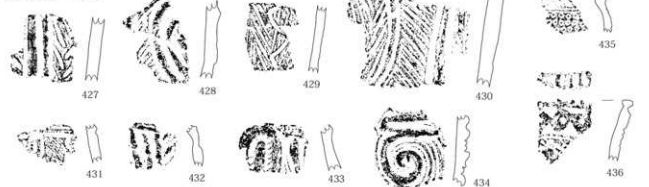
23 住②(420~426)



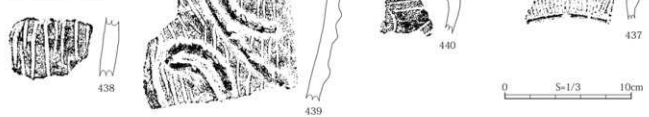
25 住(435~437)



24 住(427~434)

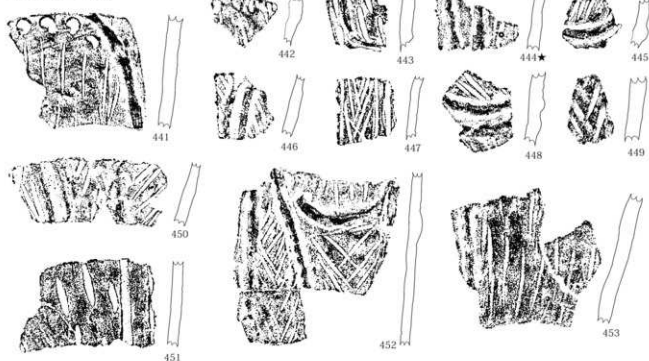


26 住(438~440)



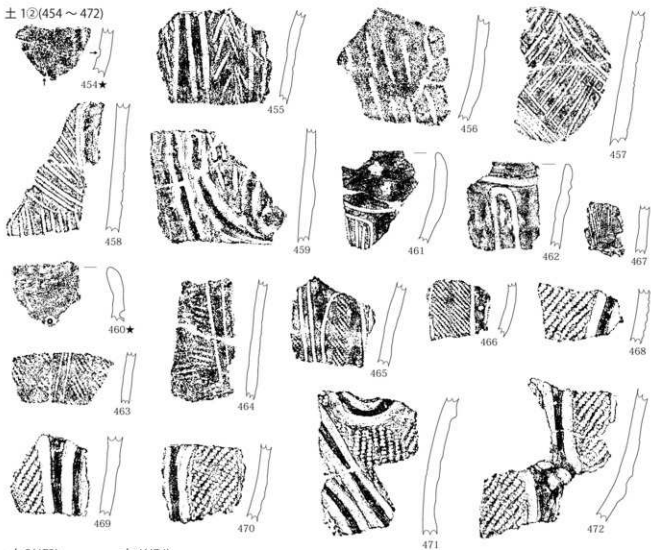
0 S-1/3 10cm

± 1①(441~453)



第 28 図 縄紋土器拓影(6)

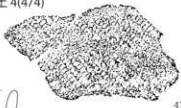
± 1②(454~472)



± 2(473)



± 4(474)



± 13(479)



± 14(480)



± 11(475)



± 12(476~478)



± 22(481)



A3Tピット(482)



A4Tピット(483~486)



484(P3)

486(P4)

485(P3)

482(P41)

483(P2)

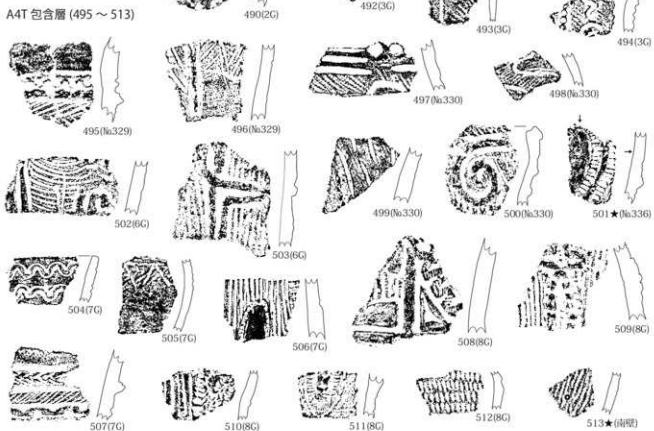
0 5-1/3 10cm

第 29 図 縞紋土器拓影 (7)

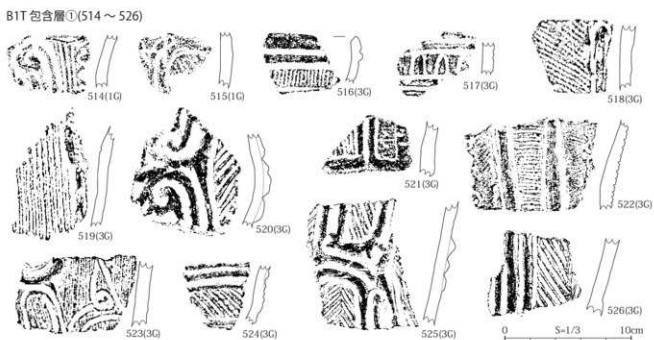
A3T 包含層 (487 ~ 494)



A4T 包含層 (495 ~ 513)



B1T 包含層①(514 ~ 526)

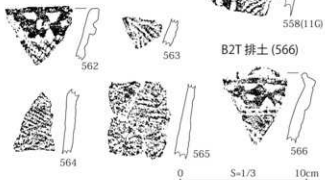


第 30 図 縄紋土器拓影 (8)

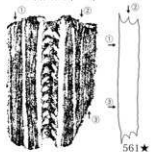
B1T 包含層②(527~560)



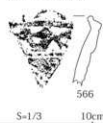
B2T 検出面 (562~565)



A4T 検出面 (561)



B2T 排土 (566)



0 S-1/3 10cm

第 31 図 縄紋土器拓影 (9)

3 石器・石製品 (第4表、第32～34図)

今回の調査で出土した石器・石製品の総数は750点である。その内訳は以下のとおりである。カッコ内の数値は、⑬～⑮を除いた合計数(242点)の割合を示す。

① 石鎌	12点(5.0%)	⑦ 砥石	32点(13.2%)	⑬ 二次加工ある剥片(RF)	33点
② 石錐	7点(2.9%)	⑧ 磨石類	38点(15.7%)	⑭ 微細剥離ある剥片(MF)	66点
③ 小形刃器	35点(14.5%)	⑨ 台石	2点(0.8%)	⑮ 剥片	409点
④ 打製石斧	63点(26.0%)	⑩ 石棒	1点(0.4%)		
⑤ 大形刃器	21点(8.7%)	⑪ 礫器	2点(0.8%)		
⑥ 磨製石斧	5点(2.1%)	⑫ 石核	23点(9.5%)		

このうち、遺構出土で遺存状態の良い定型石器を中心に41点を図化し、概要を述べる。また、RF、MF、剥片については、それぞれの点数のみ提示した。石器・石製品の帰属時期は共存する土器に準じると推定される。

(1) 石鎌(1～10) 10点を図示した。出土品のほとんどが無茎鎌で、中期の様相を示す。無茎鎌で使われる石材は、黒曜石製が5点、チャート製が4点がある。市内の他縄紋遺跡と比べチャートの占める割合が多いのは、梓川水系で容易に採集できるためと考えられる。6は、チャート製で唯一の有茎鎌であるが、粗雑に加工された基部を持ち、逆刺は尖らず丸みを帯びる。

(2) 石錐(11～14) 4点を図示した。11と13は、平面形が棒状を呈す。11は、錐部に加工が集中し、つまみ部は不定形な形状をしている。13の錐部先端は、使用痕がよく観察でき、摩滅し稜線が不明瞭になっている。12は、チャート製で全体を丁寧に押し剥離仕上げ加工されており、明瞭なつまみ部がみられる。14は、黒曜石製で、拇指形の平面形に比較的小さな錐部を持つものである。

(3) 打製石斧(15～23) 定型的な石器のうちで、最多の出土量がある。全体形が把握できるものを細分すると撿形35点、短冊形17点、分銅形6点と、撿形が圧倒的に多く含まれていることがわかった。折損品の中には、大形刃器や二次加工ある剥片と区別が困難なものも含まれる。17～19は刃縁に微細剥離や摩滅によるツブレ等の使用痕が認められる。

(4) 磨製石斧(24～28) 5点出土しているが、縄紋時代の定角式石斧は2点(24・26)のみで、残りの3点(25・27・28)は大陸系の大型蛤刃石斧である。24は、小形で扁平した断面を持つ。26は、刃部破損後に敲打によって再調整したものと推測する。刃部の研磨が実施される前に廃棄されたものか。大型蛤刃石斧は、蛇紋岩製が2点、安山岩製が1点ある。弥生時代の遺構は検出されていないが土器は出土しており、それに伴うものであろう。

(5) 砥石(29～32) 平坦な磨き面を持ち、研ぐ作業が想定できるものを砥石とした。半数の16点は、500gを超える大形品で、すべて砂岩製であった。29がそれにあたり、長楕円形の礫を素材として、重量は3,000gを超える。31は、裏面にV字形の溝状研磨痕が複数観察される。

(6) 磨石類(33～41) 磨きや凹み、敲きを単体もしくは複合的に有するものを総称して磨石類とした。出土点数は38点、その割合は定型石器の中で15%程と、1・2次調査時に比べて半分以下である。使用石材の多くは砂岩で、安山岩製や花崗岩製のものも散見できる。

(7) 石棒(42) 今回の調査では、小破片が1点確認されたのみである。42は、胴部の直径が5cm未満の小形石棒に分類できる。

遺構出土の石器・石製品について遺構別器種組成の分析を試みた。トレンチ調査のため評価が難しいが、一部顕著な結果が得た。15住から砥石11点と磨石類7点の礫石器の比率が非常に多い傾向がある。また、BIT5Gの出土遺物は位置関係から23住に含めることができ、出土石器を23住と合算すると、石鎌6点、石錐3点、小形刃器6点、剥片81点が出土しており、小形打製石器と剥片の数が他遺構と比べずば抜けて多いことが認められた。

ID	図 No.	器種	トレン チ	遺構	出土地点 など	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
001		打製石斧	A4	横出面	No. 4	緑色岩	10(61)	4.80	1.300	(77.0)	刃部と基部 欠	刃部欠、側縁部分崩れ、長さ幅が上下不均、刃部に微細 欠
002		打製石斧	A4	横出面	No. 5	カールン フェルス	(15.95)	(5.40)	(2.05)	(182.0)	部の一部欠	刃部欠、刃先(鋭)、側縁部分崩れ、刃縁・側縁に微細 欠
003		打製石斧	A4	横出面	No. 6	頁岩	(12.83)	7.71	(2.73)	(258.0)	基部欠	15 度左 3 から変角、刃先・側縁(鋭)、側縁、自然欠現存、刃部に 微細
004		砥石	A4	15 住	伊勢辺	砂岩	(11.05)	(15.05)	(12.00)	(2520.0)	1/2 欠	砥石面 1
005		砥石	A4	15 住	伊勢辺	砂岩	0(75)	(14.00)	(8.50)	(171.50)	3/4 欠	砥石面 1
006		砥石	A4	15 住	伊内	砂岩	(7.18)	(9.16)	(6.54)	(369.0)	3/4 欠	砥石面 2、微塵研砕面あり
007		砥石	A4	15 住	伊内	砂岩	(6.65)	(7.65)	(3.50)	(99.0)	3/4 欠	砥石面 2、微塵研砕面あり
008		打製石斧	A4	15 住	P1	頁岩	(8.90)	(4.97)	(2.27)	(104.0)	刃部の一部 欠	側縁部微細
011		楯部	A4	15 住	P1	黒曜石	3.24	3.60	0.99	7.8	完形	1 縁部加工
012		磨石類	A4	15 住	P1	安山岩	9.25	9.10	5.00	532.0	完形	平面的に磨、断面が楕円形、刃部(表面 1、裏面 1、手摺、φ 2.65cm、 2.04cm、長さ 0.61cm(φ 0.55cm))、側・背面(表面 1、内側、φ 7.03cm、 刃部欠、刃先(鋭)、側縁部分崩れ、自然欠現存、基部に微細
013 15		打製石斧	A4	15 住	P1	粘板岩	13.28	5.85	1.67	105.0	完形	平面的に磨、断面が楕円形、側・背面(表面 1、内側)
015		磨石類	A4	15 住	床面	砂岩	7.46	6.30	5.43	324.0	完形	平面的に磨、断面が円形、側・背面(表面 1、内側)
016		横刃形石器	A4	15 住	横土下層 東側	頁岩	9.41	6.45	1.48	104.1	完形	横長形、両端加工、平面的に磨、刃部 1、側縁部分欠、刃縁内外、刃部に内外、 自然欠現存
028 24		磨製石斧	A4	15 住	横土下層 東側	緑色岩	(8.46)	(2.49)	(0.71)	(25.2)	刃部と側部 の一部欠	側縁部が扁平状の刃部、刃部(側縁部部分欠)、平面的に磨、基部 平面的に磨
029		削器	A4	15 住	横土下層 東側	チャート	(5.46)	(2.92)	(1.53)	(15.8)	1/2 欠	砥石面 1、両端加工、加工部 2 割、後方、取り 2 枚、刃先 3 枚 刃
045		磨石類?	A4	15 住	中央部	チャート	(1.67)	(1.49)	(0.41)	(0.8)	1/2 欠	素材不明、両端加工、加工部 2 割、刃先、刃先 1.32cm
047		石杖か	A4	15 住	西側	黒曜石	2.45	2.67	1.39	10.3	完形	打面 0、断面部・側部、調整なし、粗研 2、両端加工、作業面 0、側部 加工
052		楯部	A4	15 住	東側	黒曜石	2.36	1.51	0.75	1.9	完形	砥石面 1、両端加工、加工部 2 割、両内、刃先 1.35cm
055		砥石	A4	15 住	東側	黒曜石	(9.02)	(5.59)	(4.59)	(222.0)	3/4 欠	砥石面 2
056		打製石斧	A4	15 住	東側	頁岩	(5.67)	(4.36)	(1.78)	(60.0)	刃部と基部 欠	
058 33		磨石類	A4	15 住	東側	砂岩	8.54	5.71	4.54	264.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1)
059		砥石	A4	15 住	東側	砂岩	(18.30)	(5.22)	(3.50)	(430.0)	1/4 欠	平面的に磨、断面が円形、砥石面 3、微塵研砕面あり
060		砥石	A4	15 住	中央部	砂岩	(11.85)	(12.25)	(15.25)	(2385.0)	3/4 欠	砥石面 1
071		磨石類	A4	15 住	東側	砂岩	(9.55)	(8.77)	(5.45)	(458.0)	1/2 欠	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 3)
072		砥石	A4	15 住	東側	砂岩	(6.55)	(7.07)	(2.71)	(168.0)	3/4 欠	砥石面 1
073 34		磨石類	A4	15 住	下層	砂岩	10.85	9.48	5.94	742.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1)
074 35		磨石類	A4	15 住	下層	砂岩	9.84	7.70	3.56	326.0	完形	平面的に磨、断面が不定形、側・背面(表面 1、側部 1 表面 1、 側部 1、幅内、φ 2.0cm、長さ 0.6cm)
075 36		磨石類	A4	15 住	下層	砂岩	11.38	8.05	3.27	430.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1)
076		横刃形石器	A4	15 住	下層	カールン フェルス	10.41	7.37	1.78	115.0	完形	横長形、両端加工、平面的に磨、刃部 2、側縁部鋭に特異、刃縁 内外、自然欠現存
077		砥石	A4	15 住	下層	砂岩	(6.85)	(3.60)	(4.24)	(82.0)	3/4 欠	砥石面 1
078		砥石	A4	15 住	下層	砂岩	(7.22)	(5.98)	(4.16)	(99.0)	3/4 欠	砥石面 1
079		砥石	A4	15 住	下層	砂岩	(16.40)	(18.10)	(8.30)	(3380.0)	3/4 欠	砥石面 1、微塵研砕面あり
085 37		磨石類	A4	16 住	No. 16	砂岩	10.18	8.75	6.20	781.0	完形	平面的に磨、断面が円形、側・背面(表面 1、側部 1、φ 6.89cm、 内側 1 表面 2、裏面 0)
086		磨石類	A4	16 住	No. 20	黒曜石	2.32	3.08	1.41	9.1	完形	
089		台石	A4	16 住	P4	砂岩	(35.50)	(20.00)	(12.20)	(10900.0)	1/2 欠	平面的に磨、断面が円形、砥石面 2、微塵研砕面あり
091		削器	A4	16 住	床面付近	黒曜石	2.69	2.32	0.55	2.1	完形	不定形、基部から加工、加工部 2 割、両内、刃先 1.42cm
101		砥石類	A4	16 住	床面付近	砂岩	(13.30)	(9.50)	(10.45)	(1545.0)	3/4 欠	砥石面 2
102		磨石類	A4	16 住	床面付近	砂岩	9.74	8.43	3.27	360.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1)
105		石杖	A4	16 住	西側	黒曜石	0.95	2.41	1.64	2.4	完形	打面 0、断面部 7、調整なし、粗研 1、両内、刃先 1.9cm、側部 0、側部 加工
106		石鏝	A4	16 住	内側	黒曜石	(2.60)	1.18	0.48		完形	断面が不定形、平面的に磨、刃部 1、側縁部鋭に特異、刃縁内外、 側部に微細、側内面が微細
111		削器	A4	16 住	西側	黒曜石	2.67	2.27	0.99	5.3	完形	両端加工、加工部 1 割、両内、刃先 1.9cm
117		石杖	A4	16 住	内側	黒曜石	1.75	2.15	1.46	5.2	完形	打面 0、断面部 7、調整なし、粗研 1、両内、刃先 1.9cm、側部 0、側部 加工
120		砥石	A4	16 住	東側	砂岩	(10.70)	(9.15)	(9.70)	(1390.0)	3/4 欠	砥石面 1
125		削器	A4	16 住	東側	チャート	4.69	2.64	1.23	10.3	完形	横長形、両端加工、加工部 2 割、両内、刃先 1.9cm、刃先 2.29 cm
134 29		砥石	A4	17 住	伊内	砂岩	27.75	11.45	7.35	3210.0	完形	平面的に磨、断面が楕円形、砥石面 1
135		砥石	A4	17 住	伊内	砂岩	(14.75)	(22.00)	(10.32)	(3105.0)	1/2 欠	砥石面 1、微塵研砕面あり
138		磨石類	A4	17 住	床面付近	砂岩	(14.30)	(8.30)	(6.54)	(694.0)	1/3 欠	平面的に磨、断面が不定形、側部(表面 1、内側、φ 1.36cm、長さ 0.53 cm)、側・背面(表面 1、側部 1 表面 4、裏面 0)
139		磨石類	A4	17 住	床面付近	砂岩	(14.25)	(5.90)	(7.28)	(481.0)	2/3 以上欠	平面的に磨、断面が円形、側・背面(表面 1、側部 1、φ 1.36cm、 長さ 0.53cm、側・背面(表面 1、側部 1 表面 4、裏面 0))
140		石杖	A4	17 住	床面付近	黒曜石	1.85	2.89	2.75	13.6	完形	打面 0、断面部 7、調整なし、粗研 1、両内、刃先 1.9cm、側部 0、側部 加工
142		石鏝か	A4	17 住	床面付近	黒曜石	(1.22)	(1.17)	(0.29)	(0.3)	部位不明	部位不明
153		砥石か	A4	17 住	床面	砂岩	(11.85)	6.70	8.03	(698.0)	1/4 欠	平面的に磨、断面が不定形、砥石面 1、側部・背面に微細研
154		磨石類	A4	17 住	床面	砂岩	14.00	6.73	2.62	344.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1、内側)
155		磨石類	A4	17 住	床面	花崗岩	(6.60)	(4.70)	(7.44)	(303.0)	2/3 以上欠	側・背面(表面 1、裏面 1)
156 38		磨石類	A4	17 住	西側	砂岩	13.29	6.80	4.17	468.0	完形	平面的に磨、断面が円形、刃部(表面 1、裏面 0)
158		打製石斧	A4	17 住	西側下層	頁岩	(4.07)	(3.34)	(1.02)	(19.0)	基部のみ残 存	
169		砥石	A4	17 住	西側付近	砂岩	(9.70)	(15.45)	(7.89)	(1505.0)	2/3 欠	砥石面 1
170		横刃形石器	A4	17 住	南側	粘板岩	9.70	7.14	1.31	108.0	完形	横長形、両端加工、平面的に磨、刃部 1、側縁部鋭に特異、刃縁内外、 刃部に内外、自然欠現存
187		磨石類	A3	19 住	P3	砂岩	7.67	6.26	4.75	310.0	完形	平面的に磨、断面が楕円形、側・背面(表面 1、内側、φ 2.76cm、 長さ 1、幅内、φ 4.52cm)
189		抜入石類	A3	19 住	西平分	黒曜石	2.39	3.27	0.94	3.7	完形	横長形、両端加工、加工部 2 割、後方、取り 1 枚、刃先 2.36cm
192		石杖	A3	19 住		黒曜石	1.89	1.90	1.56	4.7	完形	打面 0、断面部 7、調整なし、粗研 2、両端加工、作業面 0、側部 加工
201		楯部	A3	19 住	チャート		2.75	3.24	0.85	7.1	完形	横長形、両端加工、加工部 2 割、両内、刃先 2 枚、刃先 2.22 cm

第 4 表 石器・石製品一覧表 (1/4)

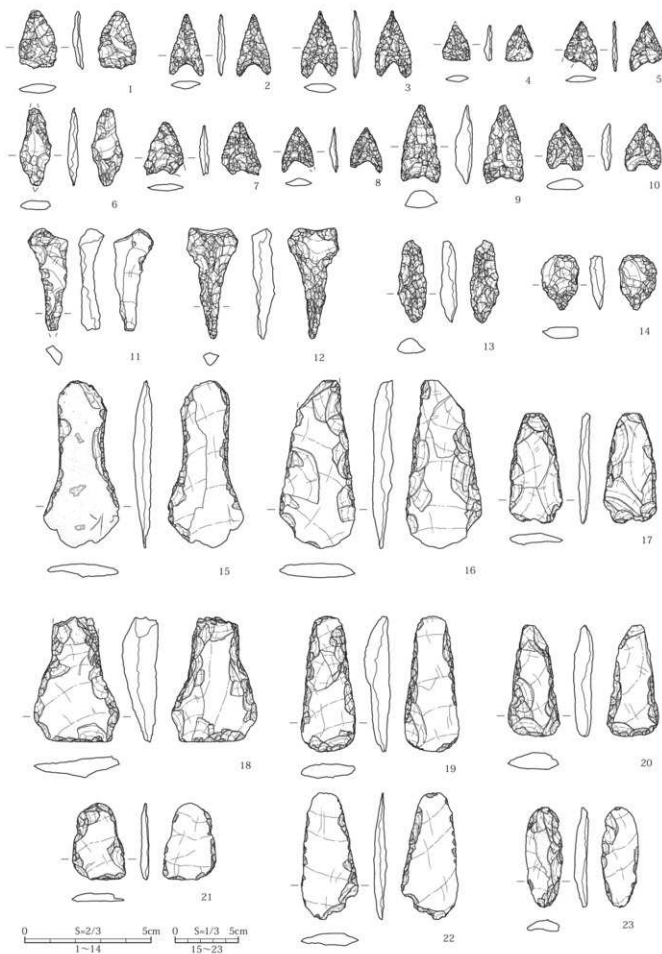
ID	図 No.	部種	トレン チ	遺構	出土地点 など	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考	
202	30	碇石	A3	19住		砂岩	11.29	7.02	3.70	365.0	完形	平面的不定形、断面三角形、縦断面2、縦断面傾斜あり	
203		削器	A3	19住	チャート		4.19	7.62	2.99	72.0	完形	横長削形、平面的長方形、刃数1、縦断面傾斜あり、刃縁に外傷、自然面残存	
225	30	磨石	B1	22住	砂岩		9.69	6.53	5.10	408.0	完形	平面的四角形、断面四角形、内径(表裏)1.85cm、縦径(裏面)1.80cm、裏面2	
226		碇石	B1	22住	西側	砂岩	14.40	33.68			(18.0)	3/4以上欠	土上
238		削器	B1	22住	西側	黒曜石	1.73	2.34	0.46	1.9	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角1.45cm	
241		石核	B1	22住	西側	黒曜石	2.70	2.32	1.65	11.6	完形	打面0、削痕0、調整なし、転移2、内径残存1、作業面0、削痕0	
244		石核	B1	22住	東側	黒曜石	2.03	2.77	1.58	8.1	完形	打面0、削痕0、調整なし、転移2、内径残存1、作業面0、削痕0	
245		打製石核	B1	22住	東側	砂岩	10.56	4.66	11.90	104.0	刃部欠	横長の削形	
252		石核	B1	22住	東側	黒曜石	2.31	2.56	1.22	6.8	完形	打面0、削痕0、調整なし、転移2、内径残存1、作業面0、削痕0	
253		磨石	B1	22住	安山岩		8.74	7.47	3.94	311.0	完形	平面的四角形、断面四角形、内径(表裏)2.2cm、縦径(裏面)φ2.11cm×1.57cm、重量0.43kg×0.45kg、内径(裏面)2	
254		碇石	B1	22住		チャート	4.55	2.36	0.92	9.0	完形	縦長の削形、断面加工、加工部1削痕×縦痕、直方、対角2.03cm×1.15cm	
264	16	打製石核	B1	23住	№2	ホルンフェルス	13.40	6.00	1.70	141.0	完形	基部の一部欠	
265		台石	B1	23住		砂岩	24.20	23.95	3.84	402.0	完形	平面的不定形、断面四角形、断面傾斜、自然面残存	
267	17	打製石核	B1	23住	床面	粘板岩	8.75	4.19	1.08	41.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形、刃縁に削痕	
268		横刃形石核	B1	23住	床面	凝灰岩	2.87	2.90	0.49	14.6	3/4以上欠		
269		碇石	B1	23住	床面	黒曜石	2.47	1.36	0.54	1.6	完形	縦長の削形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角0.97cm	
279	1	石核	B1	23住	床面	黒曜石	2.29	1.49	0.36	0.9	刃部欠	横長平形、断面加工、最大幅欠	
283		削器	B1	23住	床面	黒曜石	1.44	1.78	0.24	0.6	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角1.09cm	
287		碇石	B1	23住	床面	黒曜石	2.46	2.44	1.09	4.6	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角1.52cm	
298	2	石核	B1	23住	下層	チャート	2.37	1.33	0.31	0.7	刃部欠	横長の削形(持ち残り)、断面加工、断面1削痕、内径、最大幅欠	
299		削器	B1	23住	覆土上層	黒曜石	2.60	2.45	0.83	3.8	完形	不定形、断面加工、加工部2削痕、内径、対角1.41cm×1.27cm	
302		挟入石核	B1	23住		黒曜石	3.52	2.24	0.44	1.7	完形	縦長の削形、断面加工、加工部2削痕、内径、持ち1.9cm、対角2.0cm×1.52cm	
304	3	石核	B1	23住		チャート	2.63	1.45	0.31	1.1	完形	横長の削形(持ち残り)、断面加工、最大幅欠	
307		削器	B1	23住		黒曜石	2.89	3.20	0.73	4.6	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕×縦痕、内径、直方、対角1.51cm×1.44cm、0.30	
312	18	打製石核	B1	23住		砂岩	19.92	6.69	2.98	174.0	1基部欠	対角形×平方、断面傾斜形、自然面残存、刃縁に削痕	
313		碇石	B1	23住		チャート	6.22	3.00	1.60	21.0	完形	縦長の削形、断面加工、加工部2削痕、縦角(直外×直外)対角、対角4.89cm×4.16cm	
314	19	打製石核	B1	23住		ホルンフェルス	10.76	4.31	2.10	102.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形、刃縁に削痕	
321		碇石	B1	23住		黒曜石	10.86	1.46	0.32	0.3	1/2欠	素材不明、断面加工、加工部1削痕、直方、対角0.72cm	
322	11	石核	B1	23住		黒曜石	4.07	1.32	1.18	3.1	刃部欠	平面的不定形、断面傾斜形、断面傾斜、加工部1(断面加工)×断面とわずかに削痕、断面傾斜および傾斜に刃部欠	
325	12	石核	B1	23住		チャート	4.34	2.03	0.80	4.7	完形	平面的不定形、断面傾斜形、断面傾斜、断面傾斜、加工部1(断面加工)×断面とわずかに削痕、断面傾斜	
326	20	打製石核	B1	23住		ホルンフェルス	8.88	4.07	1.50	69.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形、断面傾斜あり	
327		磨石	B1	23住		砂岩	11.17	7.25	4.61	412.0	1/3欠	平面的不定形、断面三角形、断面傾斜(裏面)、縦径(裏面)2	
328	31	碇石	B1	23住		砂岩	10.76	5.22	3.92	354.0	1/3欠	平面的長方形、断面傾斜形、縦断面2、平面的縦断面傾斜あり	
332		磨石	B1	23住	安山岩		10.89	8.26	4.31	552.0	完形	平面的四角形、断面四角形、内径(表裏)2、裏面2	
350		碇石	B1	24住		黒曜石	1.14	3.20	1.65	4.3	完形	横長の削形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角2.58cm	
361		削器	B1	24住	床面	チャート	2.78	2.41	0.44	12.5	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕、内径、対角2.25cm	
362		磨石	B1	24住	床面	砂岩	13.33	8.67	3.00	386.0	完形	平面的不定形、断面四角形、断面傾斜(裏面)	
363		磨石	B1	24住		砂岩	14.07	5.79	4.05	376.0	完形	平面的不定形、断面四角形、断面傾斜(裏面)	
378		石核	B2	25住	東側	黒曜石	2.12	3.73	2.91	13.4	完形	打面0、削痕0、調整なし、転移1、内径残存1、作業面0、削痕0	
390		削器	B2	25住		黒曜石	2.98	2.16	0.76	3.3	完形	不定形、断面加工、加工部2削痕、直方、対角1.21cm×1.16cm	
398	21	打製石核	A5	26住		粘板岩	4.18	6.12	0.68	21.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形	
405	42	石核	A3	土1	№17	緑色片岩	4.74	4.56	2.67	63.0	3/4欠	中形、断面傾斜形、表面傾斜	
408		磨石	A3	土1	下層	砂岩	13.45	8.46	5.80	927.0	完形	平面的不定形、断面四角形×長方形、断面傾斜(裏面)2、縦径(裏面)2、縦径(裏面)2	
412		碇石	A3	土1	下層	チャート	4.36	3.73	1.27	31.0	完形	不定形、断面加工、加工部1削痕×縦痕、縦角(直外×直外)対角、対角3.65cm×3.22cm	
414	40	磨石	A3	土1	下層	砂岩	10.53	8.18	5.09	550.0	完形	平面的四角形、断面四角形、内径(表裏)2、裏面1、縦径(裏面)1、裏面1	
415		打製石核	A3	土1	下層	砂岩	12.65	5.01	1.87	115.0	基部欠	対角形×長方形、断面傾斜形、自然面残存、刃縁に削痕	
423	32	石核	A3	土1	下層	砂岩	8.50	5.50	4.10	242.0	完形	平面的不定形、断面四角形×長方形、断面傾斜	
424		磨石	A3	土1	下層	砂岩	7.82	5.23	4.10	239.0	完形	平面的四角形、断面四角形、断面傾斜(裏面)2、裏面2	
425	22	打製石核	A3	土1	下層	ホルンフェルス	10.03	4.43	1.09	425.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形、自然面残存	
431	23	打製石核	A3	土1		砂岩	7.93	2.89	1.05	30.0	完形	対角形×長方形、断面傾斜形、自然面残存	
436		碇石	A3	土1		チャート	4.07	3.27	1.77	22.7	完形	縦長の削形、断面加工、加工部2削痕、内径、対角3.82cm×2.83cm	
438	41	磨石	A3	土1		砂岩	8.21	7.71	4.99	430.0	完形	平面的四角形、断面四角形、内径(表裏)1.97cm、縦径(裏面)1.97cm、裏面2	
440		磨石	A3	土1		砂岩	13.05	10.45	4.83	836.0	完形	平面的不定形、断面四角形×長方形、断面傾斜(裏面)1、裏面1	
442		打製石核	A3	土1		砂岩	8.42	4.51	1.20	49.0	完形	対角形×平方、断面傾斜形、断面傾斜、断面傾斜	
454		横刃形石核	A3	16		粘板岩	117.75	3.30	1.69	69.6	1/4欠	断面加工、平面的傾斜、対角1、断面傾斜形、自然面残存	
455		碇石	A3	16		砂岩	6.75	8.77	14.31	230.0	3/4欠	縦断面傾斜	
456		磨石	A3	26		砂岩	11.38	7.89	3.99	377.0	完形	平面的四角形、断面四角形×長方形、断面傾斜(裏面)1、内径(裏面)1.97cm、縦径(裏面)1.97cm、裏面2	
457		打製石核	A3	26		ホルンフェルス	13.11	5.02	1.61	101.0	基部一部欠	対角形×長方形、断面傾斜形	
458		横刃形石核	A3	26		緑色片岩	4.23	2.63	0.51	5.3	完形	縦長の削形、断面加工、加工部2削痕、直方、対角2.91cm	
464		磨石	A3	36		砂岩	7.55	8.75	6.80	573.0	1/2欠	断面四角形、断面傾斜(裏面)1、縦径(裏面)1	
465		碇石	A3	36		砂岩	5.46	4.37	1.64	171.0	3/4欠	縦断面傾斜、縦断面傾斜	
466		碇石	A3	36		砂岩	8.35	9.09	16.25	611.0	3/4欠	縦断面傾斜、縦断面傾斜	
472		石核	A3	36		黒曜石	2.36	2.12	1.85	7.1	完形	打面0、削痕0、調整なし、転移1、内径、作業面0、削痕0	
476		削器	A3	36		黒曜石	1.85	1.28	0.36	0.6	完形	縦長の削形、断面加工、加工部1削痕、直方、対角0.95cm	

第4表 石器・石製品一覧表(2/4)

ID	図 No.	部種	トレン チ	遺構	出土地点 など	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
756		砥石	B1	7C		砂岩	110.65	12.30	110.50	1415.0	3/4欠	破損数2
758	9	石蓋	B1	7C		黒曜石	3.01	1.54	0.69	2.2	完形	無彫り目(後方浅い)、逆削跡(1)、磨痕(内面、最大幅下方)
760		磨石類	B1	8C		火山岩	7.08	6.42	3.70	203.0	完形	平面削り目、断面削り目、磨り(裏面2)、裏面3、裏面4)
767		磨石類	B1	9C		砂岩	9.76	8.10	4.07	459.0	完形	平面削り目、断面削り目、磨り(裏面1、裏面2、裏面3、裏面4)
768		磨石類	B1	9C		砂岩	8.03	5.97	4.48	256.0	完形	平面削り目、断面削り目、磨り(裏面1、裏面2)、磨り(裏面3、裏面4)
769		磨石類	B1	9C		砂岩	8.68	6.39	5.07	381.0	完形	平面削り目、断面削り目、磨り(裏面1、裏面2)、磨り(裏面3、裏面4)
770		磨石類	B1	9C		砂岩	10.96	7.65	5.98	629.0	完形	平面削り目、断面削り目、磨り(裏面1、裏面2、裏面3)
771		打製石片	B1	10C		粘板岩	6.60	5.01	1.52	49.0		上縁と刃部欠 自然面残存
772		打製石片	B1	10C		ホルン フェルス	8.61	4.47	1.35	68.0	基部一部欠	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、刃部に磨減
774		打製石片	B1	10C		ホルン フェルス	6.64	5.17	1.01	34.2	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存
776		石核	B1	10C		黒曜石	3.18	2.02	1.40	8.4	完形	打痕点、剥離面、調整面、毛彫2、磨合1、作業面(底、剥離面)
777		打製石片	B1	11C		ホルン フェルス	10.42	4.62	1.53	97.0	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存(後方浅い)、磨痕に磨減
780		石蓋か	B1	11C		チャート	3.91	2.22	1.08	4.9	1/2欠	平面削り目(裏面)を有する。裏面(断面削り目、高面加工、磨痕とわずかに磨痕)
783		砥石	B1	11C		砂岩	9.75	11.45	7.14	670.0	3/4欠	破損数1
784		磨石類	B1	11C		砂岩	5.86	4.45	3.53	1030.0	3/4欠	磨り(裏面)表面
790	10	石蓋	B1	15C		チャート	1.81	1.46	0.43	1.0	完形	無彫り目(後方浅い)、逆削跡(1)、磨痕(内面、最大幅下方)
796		打製石片	B1	排土	東側	ホルン フェルス	11.17	4.48	1.75	95.0	完形	断面削り目、断面削り目、全体が完成、刃部に磨減
799		石核	B1	排土		黒曜石	2.08	3.96	2.23	15.4	完形	打痕点、剥離面、調整面、毛彫なし、作業面(底、剥離面)
800		打製石片	B1	排土		頁岩	14.98	5.28	2.78	254.0	刃部一部欠	磨痕の残存、自然面残存、磨痕に磨減
801		打製石片	B1	排土		粘板岩	7.20	6.36	2.88	176.0	下下欠	自然面残存
802		打製石片	B1	排土		頁岩	9.10	5.20	2.24	133.0	完形?	磨痕の残存、刃部残存も使用可?
804		打製石片	B1	排土		ホルン フェルス	8.13	4.98	1.85	112.0	刃部欠	磨痕の残存(後方浅い)
805		打製石片	B1	排土		頁岩	7.09	5.25	0.97	55.0	完形	磨痕の残存のみ
822	28	磨製石片	一	表採		粘板岩	16.55	6.72	4.63	919.0	完形	毛彫り目(裏面)、刃部(断面削り目、平面削り目急)
823		石核	一	表採(寄贈)		黒曜石	1.90	4.19	2.33	19.9	完形	打痕点、剥離面、調整面、毛彫2、磨合1、作業面(底、剥離面)
824		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		粘板岩	5.70	16.00	2.49	148.0	完形	
825		打製石片	一	表採(寄贈)		粘板岩	12.40	6.40	1.65	154.0	基部一部欠	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、自然面残存
826		打製石片	一	表採(寄贈)		粘板岩	11.66	6.65	2.12	186.0	完形	磨痕の残存のみ
827		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	10.83	8.30	19.60	147.0	1/3欠	縦長削り目、高面加工、刃部1、刃部削り目、自然面残存
828		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	9.52	4.49	1.70	87.0	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、自然面残存
829		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	11.48	4.06	1.45	85.2	基部一部欠	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、全体が完成
830		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	8.97	5.25	1.52	71.4	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存
831		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	9.41	4.54	2.10	84.7	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、自然面残存
832		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	9.43	4.43	1.99	98.5	刃部一部欠	磨痕の残存(断面削り目)、自然面残存
833		打製石片	一	表採(寄贈)		粘板岩	11.97	7.15	1.98	175.0	刃部一部欠	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、自然面残存
834		打製石片	一	表採(寄贈)		粘板岩	11.19	8.49	1.98	215.0	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、全体が完成、自然面残存
837		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		頁岩	4.99	7.62	1.13	49.2	完形	縦長削り目、高面加工、加工面(毛彫、毛彫)
838		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	9.97	5.70	2.28	154.0	基部欠	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存
839		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	10.70	4.76	1.79	110.0	基部欠	磨痕の残存
840		打製石片	一	表採(寄贈)		粘板岩	10.15	6.41	2.07	142.0	下下欠	磨痕の残存、磨痕に磨減
841		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	8.70	5.30	1.40	74.4	刃部欠	磨痕の残存?
842		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	8.71	6.25	2.28	168.0	完形	刃部内・平刃、磨痕の残存、刃部・磨痕に磨減、刃部削り目も再調整して使用?
843		打製石片	一	表採(寄贈)		硬砂岩	8.39	5.00	1.97	86.5	刃部欠	磨痕の残存、自然面残存
844		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	11.83	4.60	2.03	131.0	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、刃部・磨痕に磨減
845		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	10.50	5.54	2.00	115.0	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存、自然面残存
846		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	8.40	5.02	2.23	107.4	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、自然面残存、磨痕に磨減
847		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		頁岩	10.23	5.75	2.17	141.0	片割れ欠	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、自然面残存
848		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	7.83	4.61	1.29	65.9	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、自然面残存、刃部に磨減
849		磨器	一	表採(寄贈)		砂岩	11.85	5.21	1.73	142.0	完形	高面加工
850		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	8.61	4.64	1.21	53.3	刃部一部欠	磨痕の残存
851		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	10.05	3.83	1.51	80.2	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、自然面残存、刃部に磨減
852		磨器	一	表採(寄贈)		粘板岩	5.98	5.39	1.50	65.2	完形	高面加工
853		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		硬砂岩	4.09	5.21	9.90	19.1	完形	
854		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	6.64	4.95	1.52	53.0	完形	刃部内・裏内(緩い)、磨痕の残存、磨痕に磨減
855		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		頁岩	6.84	4.64	10.78	29.3	1/2欠	高面加工、刃部1、刃部削り目?
856		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		頁岩	6.70	4.10	10.63	19.9	1/4欠	縦長削り目、高面加工、刃部1、刃部削り目
857		打製石片	一	表採(寄贈)		ホルン フェルス	9.57	4.24	1.23	67.2	完形	刃部内・裏内(急)、磨痕の残存
858		横刃形石蓋	一	表採(寄贈)		頁岩	8.38	4.19	1.43	55.0	完形	縦長削り目、高面加工、平面削り目、刃部1、刃部削り目、自然面残存
859		打製石片	一	表採(寄贈)		頁岩	8.60	5.39	1.75	89.0	刃部欠	磨痕の残存、自然面残存

※()内数字は残存率を表す。
※1.200g未満は10g単位、1.200g以上は5g単位。

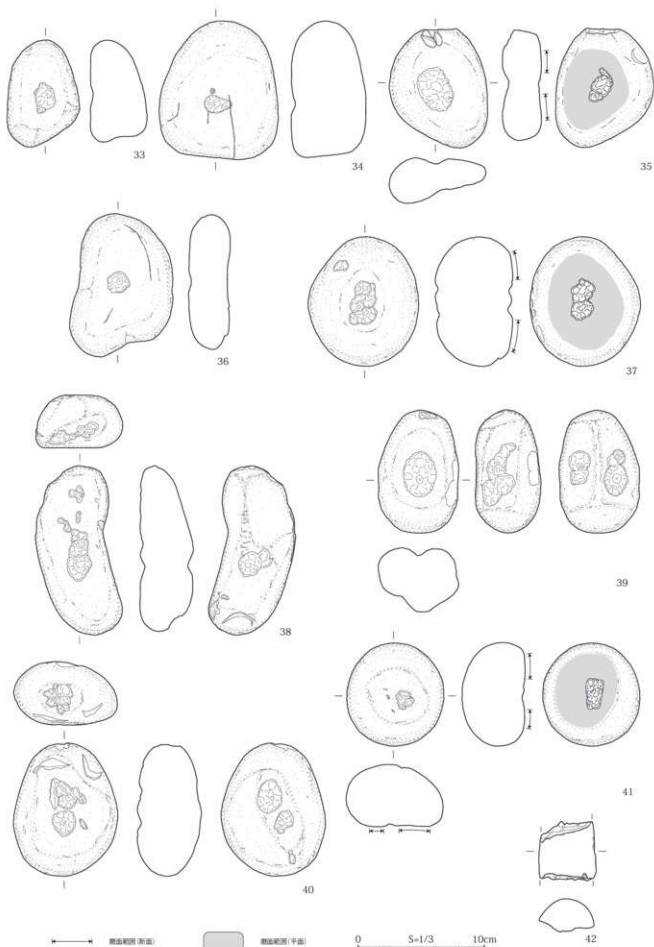
第4表 石器・石製品一覧表(4/4)



第32图 石器·石製品実測図(1)



第33图 石器·石製品実測図(2)



第 34 图 石器·石製品実測図 (3)

第4節 自然科学分析

麻神遺跡第3次調査の竪穴住居址から出土した炭化植物と土器種実圧痕

那須浩郎（岡山理科大学）・佐々木由香（明治大学黒曜石研究センター）・会田 進（同）

1 はじめに

本報告では、麻神遺跡（第3次調査）の住居址から出土した炭化植物と土器種実圧痕を報告する。近年、縄文時代におけるマメ（広義のアズキとダイズ）の利用が注目されているが、特に八ヶ岳山麓を中心とした中部山岳地域では、縄文時代中期後半から後期前半にかけて、大型のマメ資料が多数報告されている（例えば、那須ほか2015など）。このような大型マメが、いつどこでどのように大型化するのか、そのプロセスを理解するためには、八ヶ岳周辺だけでなく、松本盆地なども含めたより広域でのデータの蓄積が必要である。今回、松本市麻神遺跡の住居址に含まれる炭化植物と土器種実圧痕を調査する機会を得たので、その詳細を報告する。

2 試料と方法

2-1 炭化植物

炭化植物を調査した堆積物試料は、住居址17住と22住、23住から得られた。17住と22住は、炉の埋土で、東側と西側に分けて採取された。23住は埋裏の充満土と覆土中に出土したほぼ完形土器（第16図92）の充満土が採取された。これらの堆積物試料からフローテーション法（水洗浮遊選別法）により炭化植物を抽出した。堆積物の体積は、それぞれ、17住が55.8リットル、22住が153.9リットル、23住が12.9リットルである。フローテーションは長野県原村弘沢の会田研究所にて、会田ほか（2015）の方法によって行った。

フローテーションにより得られた炭化物は、自然乾燥後、4mm、2.8mm、2mm、0.5mmのふるいにより再度選別し、実体顕微鏡を用いて観察し、那須の所有する現生種子標本との比較により種同定を行った。また、一部の資料については、写真撮影、サイズ計測を行った。写真撮影とサイズ計測はNikon社製の顕微鏡デジタルカメラDS-Fi3とイメージングソフトウェアNIS Elements D ver.5.01を使用した。得られた炭化植物のうち、木片とクルミ属破片、堅果類破片については、いずれも微細な破片であったため、有無を記号（+）で示し、計数しなかった。また、17住から出土したアズキ亜属炭化種子1点について、（株）パレオ・ラボに依頼し、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2-2 土器種実圧痕

土器種実圧痕は、出土した土器破片の全点を精査し、目視で確認した種実と思われる圧痕125点のレプリカを採取した。レプリカの作製は、丑野・田川（1991）などを参考に、以下の手順で行った。まず、圧痕内を水で洗い、水を離型剤として圧痕内および周囲に塗布した後、印象剤としてシリコン樹脂（JMシリコンレギュラータイプもしくはインジェクションタイプ）を圧痕部分に充填した。レプリカは実体顕微鏡で観察して同定し、特徴的な分類群について走査電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-6010LA）および実体顕微鏡（Leica EZ4 W）で撮影を行った。得られたレプリカは、会田研究所に保管されている。

3 結果

3-1 出土した炭化植物（表1、図1-3）

17住の炉の埋土からは、アズキ亜属種子/子葉の完形が23点、半割が10点、ダイズ属種子/子葉の完形が1点、アズキ亜属がダイズ属かどうか不明であるが、種子/子葉の破片が38点出土した。さらに、キハダ果実が完形3点、半割3点、破片114点、小核が完形18点、半割17点、破片17点、種子が完形3点出土した。他にはオニグルミ核破片と堅果類果皮破片も出土している。炉の東側埋土と西側埋土での顕著な差は見られなかった。

22住の炉の埋土からは、アズキ亜属種子/子葉の半割が4点、ダイズ属種子/子葉の完形が1点、アズ

表1 堆積物のフローテーションにより検出した炭化植物一覧

項目番号 堆積物試料採取日	1		2		3		4		5		6		小計 合計
	2018.11.27	2018.11.26	2018.12.18	2018.12.5	2018.12.13	2018.12.11	2018.12.13	2018.12.5	2018.12.13	2018.12.11	2018.12.11	小計	
トンチ													
遺構番号	17号住	17号住	23号住	23号住	22号住	22号住	22号住	22号住	22号住	22号住	22号住		
位置	炉内	炉内	埋裏	完形土器	炉址	炉址	炉址	炉址	炉址	炉址	炉址		
土層	東側埋土	西側埋土	内部の土	内部の土	東側埋土	西側埋土	東側埋土	西側埋土	東側埋土	西側埋土	西側埋土		
水洗した堆積物の量(%)	31.8	24.0	55.8	11.5	1.4	12.9	86.8	67.1	67.1	153.9	222.6		
アズキ亜属	種子/子葉	完形	10	13	23		1	1					24
	半割	7	3	10					2	2	4	14	
ダイズ属	種子/子葉	完形	1	1					1	1	1	2	
アズキ亜属-ダイズ属	種子/子葉	破片	16	22	38				5	4	9	47	
	果実	半割	1	2	3							3	
	破片	50	64	114					1		1	115	
キハダ	完形	10	8	18									
	小核	半割	11	6	17								17
	破片	11	6	17									19
	完形	2	1	3						2	2	4	
オニグルミ	種子												3
	核	破片	+	+	+								+
堅果類	果皮	破片	+	+	+		+		+	+	+		+
クルミ-堅果類	果皮/種子	破片	+	+	+				+	+	+		+
不明種子A(ダイズ属種子破片?)		1		1									1
不明種子B(キハダ未熟小核?)		1		1									1
不明種子C(イネ科-カヤツリグサ科果実?)				1				1					1
不明種子D(楕円体)				1				1					1
樹皮				1				1					2

備考: オニグルミと堅果類については破片数ではなく、有無を+で示した。

キ亜属-ダイズ属種子/子葉の破片が9点出土した。キハダは小核が破片で2点のみ出土した。オニグルミ核破片と堅果類果皮破片は普通に出土している。ここでも炉の東側埋土と西側埋土での顕著な差は見られなかった。

23住の埋裏内部の堆積物からは、不明種子と樹皮しか出土しなかった。覆土中の完形土器からはアズキ亜属種子/子葉の完形が1点と堅果類果皮破片のみが出土した。

アズキ亜属とダイズ属のサイズを表2に示す。アズキ亜属の体積(長さ×幅×厚さ)は平均で33.62mmとなり、現在の野生種ヤブツルアズキの変異に収まる。ダイズ属も体積は平均で87.99mmとなり、これも現在の野生種ツルマメの変異に収まる。どちらのサイズも野生種程度で、小さかった。

以下、得られた分類群の記載を行う。

(1) アズキ亜属 *Vigna* subgen. *Ceratotropis*

炭化種子/子葉が出土した。完形が24点、半割が14点出土した。完形の場合、全形は不規則な俵型となり、横断面観では、腹面が切形、背面には鈍い稜があるので、三角状のおにぎり型になる。完形の個体は、へそが消失しているが、腹面観は楕円形-長楕円形で、中央に縦長の割れ目があり、本来はへそがあったと考えられる。側面観も楕円形-長楕円形。子葉の多くはむき出しの状態で炭化しているが、部分的に種皮が残存しているので、種子/子葉とした。熱による変形が少ない計測可能な種子(16点)のサイズは、長さの平均値が4.63mm(最大5.69mm、最小3.90mm)、幅の平均値が2.71mm(最大3.21mm、最小2.30mm)、厚さの平均値が2.66mm(最大2.95mm、最小2.26mm)。半割の子葉は、子葉断面にはへそ部から中央に向かって垂れるような細長い窪みがあり、初生葉痕(初生葉が位置する場所の窪み)と思われる。一部の子葉には、初生葉の一部が残存していた。

表2 アズキ亜属とダイズ属の炭化種子サイズ一覧表(単位:mm)

分類群	ID	遺構	長さ	幅	厚さ	長さ×幅×厚さ [mm ³]
アズキ亜属	麻神3.1.01	17号住	5.05	2.36	2.78	33.13
	麻神3.1.02	17号住	4.57	2.86	2.42	31.63
	麻神3.1.03	17号住	4.26	2.88	2.95	36.19
	麻神3.1.04	17号住	5.69	2.97	2.64	44.61
	麻神3.1.05	17号住	3.90	2.35	2.26	20.71
	麻神3.1.06	17号住	4.81	2.67	2.53	36.24
	麻神3.1.07	17号住	4.35	2.63	2.51	28.72
	麻神3.1.08	17号住	4.32	2.98	2.65	34.12
	麻神3.2.01	17号住	4.82	2.63	2.86	36.26
		17号住	4.87	2.30	2.42	27.11
	麻神3.2.03	17号住	4.39	2.60	2.44	27.85
	麻神3.2.04	17号住	5.05	2.97	2.95	44.25
	麻神3.2.05	17号住	4.06	2.53	2.46	25.27
	麻神3.2.06	17号住	5.01	2.86	2.68	38.40
麻神3.2.07	17号住	4.27	3.21	2.58	39.48	
麻神3.2.01	23号住	4.73	2.59	2.76	33.81	
	平均	4.63	2.71	2.66	33.62	
	最大値	5.69	3.21	2.95	44.61	
	最小値	3.90	2.30	2.26	20.71	
	標準偏差	0.44	0.25	0.21	6.39	
ダイズ属	麻神3.2.06	17号住	6.27	2.90	4.58	83.28
	麻神3.5.01	22号住	6.25	3.69	4.02	92.71
		平均	6.28	3.30	4.30	87.99
		最大値	6.27	3.69	4.58	92.71
		最小値	6.25	2.90	4.02	83.28
	標準偏差	0.01	0.40	0.28	4.72	

(2) ダイズ属 *Glycine*

炭化種子/子葉が出土した。完形が2点出土したが、熱によりやや変形し、内部が発泡している。全形はやや扁平な楕円体で、腹面視は楕円形。へそは確認できなかった。側面視は広楕円形。長さの平均値が6.26mm(最大6.27mm、最小6.25mm)、幅の平均値が3.30mm(最大3.69mm、最小2.90mm)、厚さの平均値が4.30mm(最大4.58mm、最小4.02mm)。

(3) キハダ *Phellodendron amurense*

炭化した果実、小核、種子が出土した。果実は直径7.6mm程度の球形で、基部には1.4mm程度の果柄がある。果実は完形が3点、半割が3点、破片が115点出土した。果実の内部には5個の小核(内果皮)が入っている。小核の広い面は半円形で狭い面からみるとレンズ型になる。表面には細かい網目模様がある。長さは4.87~4.22mm、幅は2.87~2.48mm、厚さは1.86~1.52mm程度。小核は、完形18点、半割17点、破片19点出土した。小核の中には種子があり、一部は外に出ていた。種子も広い面は不規則な半円形、狭い面はレンズ型であり、表面は平滑。種子は完形が3点出土した。

(4) その他の植物

この他に、オニグルミの核の破片、堅果類(ドングリ/クリ)の果皮および子葉の破片、不明種子A~D、巻いた状態の樹皮が出土した。これらについては、別報で報告する。

3-2 放射性炭素年代測定の結果

表3に17住の炉内東側埋土から出土したアズキ亜属炭化種子1点の年代測定結果を示す。炭素14年代は 4310 ± 23 yr BPの結果が得られた。OxCal4.3(較正曲線データ: IntCal13)による較正年代(2 σ)では、3011-2976 cal BC (8.3%)、2943-2887 cal BC (87.1%)の暦年代範囲が得られた。

表3 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-40506 試料No.麻神3-1-6アズキ亜属	-27.49 \pm 0.30	4310 \pm 23	4310 \pm 25	2920-2896 cal BC (68.2%)	3011-2976 cal BC (8.3%) 2943-2887 cal BC (87.1%)

3-3 得られた種実圧痕

レプリカの同定結果を表4に示す。縄文時代中期中葉から後葉の土器からは、木本植物では、キハダ小核が完形1点と堅果子葉の破片が5点、草本植物ではダイズ属種子の完形が3点、子葉が完形1点、破片1点、アズキ亜属種子の完形が1点、シソ属果実が完形2点、シソ属果実?が完形2点得られた。このほか、完形で特徴的なタイプを不明A~C種実とし、形態から種実の可能性はあるが、断定ができない一群を不明とした。

時期別に見ると(不明は除く)、縄文時代中期中葉の土器からはダイズ属子葉が1点、中期中葉~後葉(初期)ではキハダ小核が1点、堅果子葉3点、ダイズ属子葉1点、不明B種実が1点の計6点、中期後葉(初期)では堅果子葉2点、ダイズ属種子3点、ダイズ属子葉1点、シソ属果実2点、シソ属果実?が2点、不明C種実が1点の計11点、中期後葉末ではアズキ亜属種子が1点と不明A種実が1点得られた。

分類群の種実のサイズを表5に示す。アズキ亜属の体積(長さ \times 幅 \times 厚さ)は85.16 mm^3 (台帳番号3)、ダイズ属の体積は、長さが破片値のため、119.46 mm^3 以上(台帳番号18-1)と炭化種子に比べて大型であった。

次に、分類群ごとに記載を行い、図4に代表的な圧痕レプリカの顕微鏡写真を示して同定の根拠とする。

(1) キハダ *Phellodendron amurense* 小核

上面視は両凸レンズ形、側面視は半月形。表面には網目状の隆線がある。上半部は別のものが付着しており、果実の可能性はある。

素年代は、およそ 4900 年前 (2900 cal BC) の縄文時代中期後葉の初めの年代を示し、遺構に伴って出土した土器の型式、平出VI類 (曾利式) と矛盾しない結果となった。アズキ亜属とダイズ属の炭化種子のサイズは現在の野生種と同程度で小さく、同時期の諏訪湖地域の岡谷市目切遺跡から出土したマメのサイズと類似していた (会田ほか 2012)。このことは、松本盆地と諏訪地域では、4900 年前の曾利式の段階では、マメの利用は行われていたが、まだ大型化は起きていなかったことを示している。また、アズキ亜属とダイズ属の出土量と出現頻度から、アズキ亜属の方が、ダイズ属よりも多く利用されていた可能性がある。アズキ亜属はダイズ属に比べて炭水化物の含有量が多いことがその一因なのかもしれない。

マメ以外にも、キハダが炭化果実ごと出土しており、マメとともにキハダの果実利用があったことを示している。キハダは縄文時代早期以降、主に東日本の遺跡でよく出土する。キハダは生薬の黄蘗として知られる薬用植物であり、薬用としての利用が想定されるが、果実の食利用の例もある。アイヌの民俗例 (アイヌ民族博物館 2004、長沢 2012) では、果実をまだ青いうちに採集して、乾かしておき、一年を通して食料や薬、香辛料として利用するという。また、大豆や南瓜といっしょに煮て、ご馳走のラタシケブを作る。もしかしら、縄文人もマメと一緒に煮て食べていたのかもしれない。

以上のように、麻神遺跡では、オニグルミや堅果類だけでなく、小型であったマメ類やキハダ、シソ属を食利用していた可能性を示すことができた。シソ属は長さ 2.59mm と現在の栽培種であるエゴマに近い大きさであったが、臍部分の稜線が割れた状態であった。このため、土器の水分を吸水して膨張し、発芽した状態であった可能性がある。

この時期のマメ類の利用がどのようにマメの大型化 (ドメスティケーション) につながっていくのか、今後も周辺地域の時空間的なデータを蓄積する必要がある。そのためにも、発掘調査で見つかる住居跡の炉の堆積物は重要である。今回は、住居ごとに出土した炭化植物の種類は大きな差なかったが、炉と土器の内部とでは、出土量に大きな違いがみられた。この結果は、1 遺跡でも、できるだけ多くの住居跡、特に炉の埋土を採取することが重要であることを示している。今回得た知見を参考にしつつ、今後も継続して資料を増やしていきたい。

謝辞

本研究の機会を提供くださった松本市教育委員会三村竜一、直井雅尚氏に感謝いたします。水洗作業やレブリカ採取では、牛山晴彦、斉藤美弥子、関戸朋弘、森山光郎、山崎保義、山本郁子の各氏に大変お世話になりました。キハダ果実の民俗利用については、岡山理科大学の東馬哲雄氏、東馬加奈子氏にご教示いただきました。記して感謝を致します。なお、本研究は科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者会田進・JP19K01099) の研究成果の一部である。

引用文献

- 会田 進・中沢道彦・那須浩郎・佐々木由香・山田武文・奥石 甫 2012 「長野県岡谷市目切遺跡出土の炭化種実とレブリカ法による土器種実圧痕の研究」『資源環境と人類』2: 49-64
- 会田 進・山田武文・佐々木由香・奥石 甫・那須浩郎・中沢道彦 2015 「岡谷市内縄文時代遺跡の炭化種実及び土器種実圧痕調査の報告 (本編)」『長野県考古学会誌』150: 10-45
- アイヌ民族博物館 2004 『アイヌと自然シリーズ第3集 アイヌと植物〈樹木編〉』アイヌ民族博物館。
- 長沢 武 2012 『野外植物民俗事苑』ほおずき書籍
- 那須浩郎・会田 進・山田武文・奥石 甫・佐々木由香・中沢道彦 2015 「炭化種実資料から見た長野県諏訪地域における縄文時代中期のマメの利用」『資源環境と人類』5: 37-52

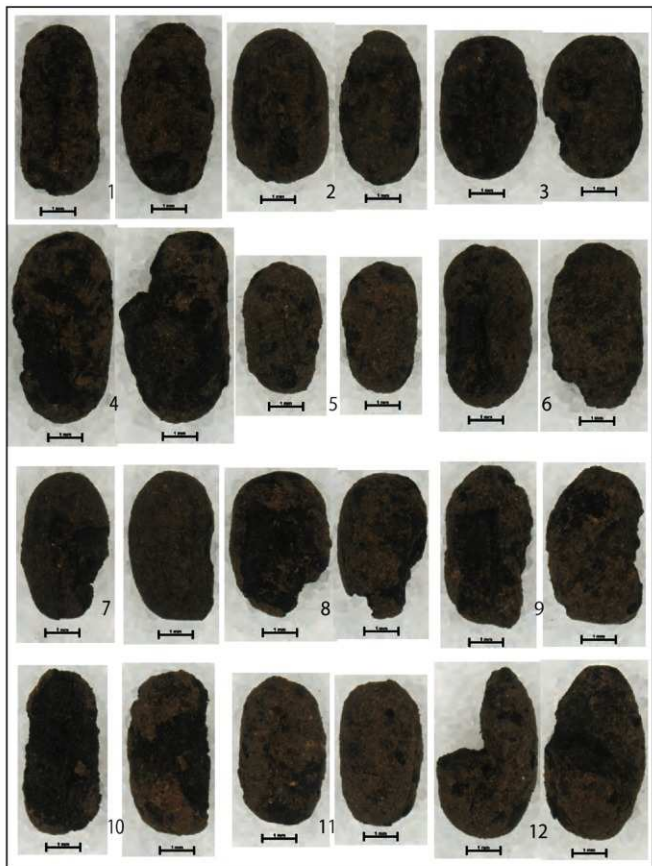


図1 麻神遺跡から出土した炭化種実（その1）

1-12：アズキ亜属炭化種子（左：腹面観、右：側面観、1-8：麻神3_1、9-12：麻神3_2）

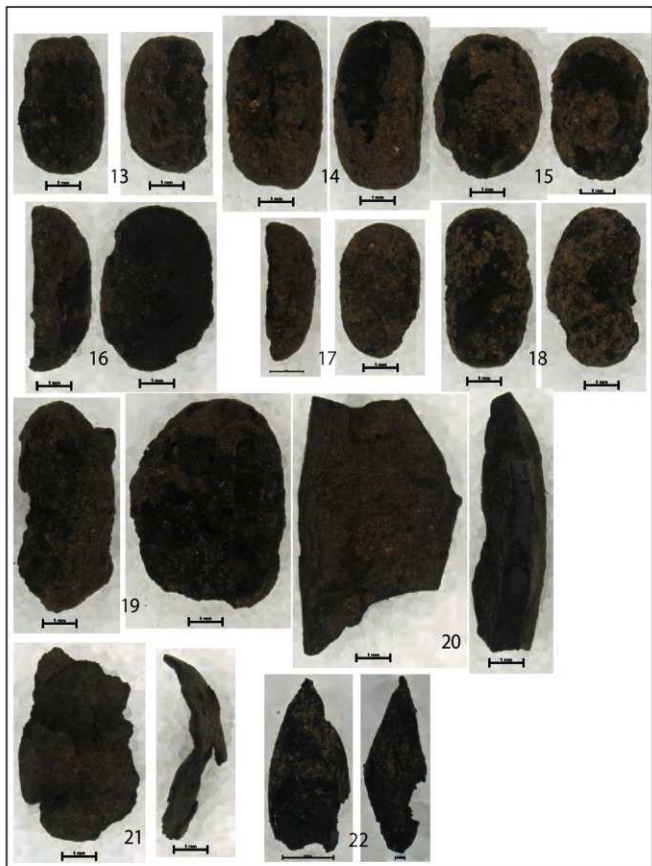


図2 麻神遺跡から出土した炭化種実（その2）

13－18：アズキ垂属炭化種子（左：腹面観、右：側面観、13－17：麻神3_2、18：麻神3_4）、

19：ダイズ属炭化種子（左：腹面観、右：側面観、麻神3_2）、20：オニグルミ炭化核破片（左：核表面、右：核断面、麻神3_5）、

21：堅果類炭化果皮破片（左：果皮表面、右：果皮断面、麻神3_5）、22：不明種子C（左：腹面観、右：側面観、麻神3_3）

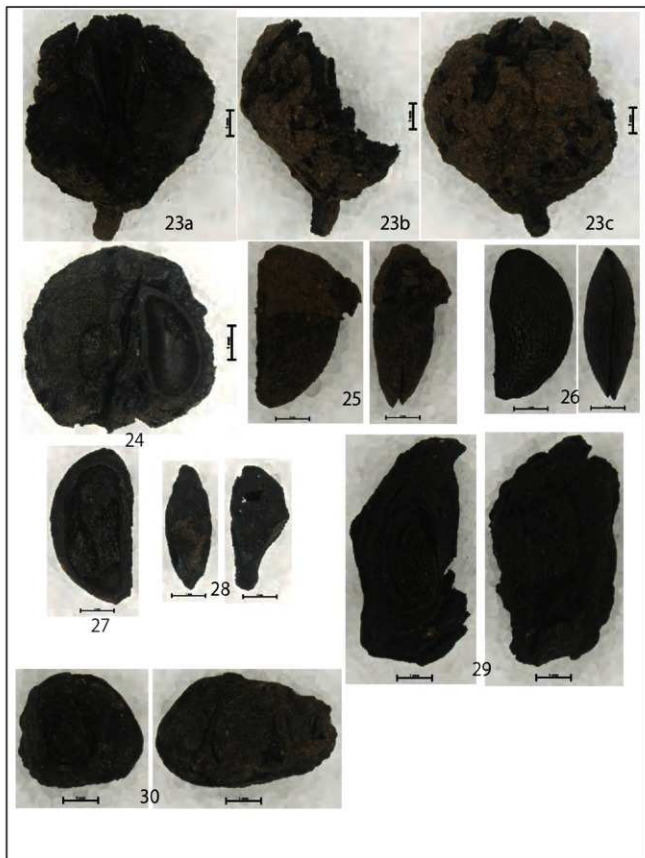


図3 麻神遺跡から出土した炭化種実（その3）

23－28：キハダ、23：炭化果実（23a：内面観、23b：側面観、23c：表面観、麻神3_2）、24：炭化果実（断面観、麻神3_2）、
 25：果皮が付着した炭化小核（左：腹面観、右：側面観、麻神3_2）、26：小核（左：腹面観、右：側面観、麻神3_2）、
 27：小核と内部の種子（断面観、麻神3_2）、28：種子（左：腹面観、右：側面観、麻神3_2）、
 29－30：炭化樹皮（左：断面観、右：側面観、29：麻神3_1、麻神3_3）

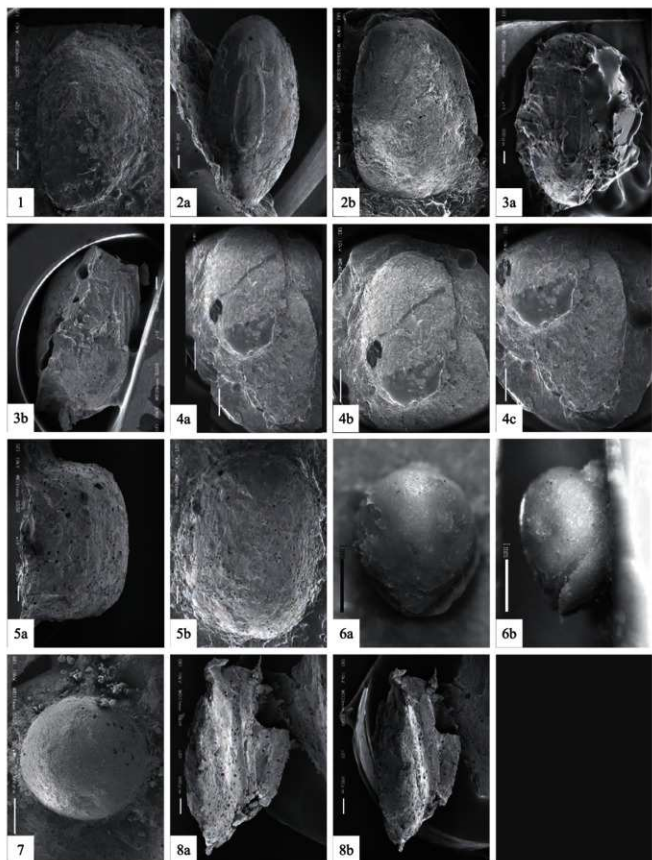


図4 麻神遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡および実体顕微鏡写真

1. キハダ小核 (No.016)、2. ダイズ属種子 (No.018-1)、3. ダイズ属種子 (No.018-2)、4. ダイズ属子葉 (No.007)、
5. ササゲ属アズキ亜属種子 (No.003)、6. シソ属果実 (No.024)、7. 不明A種実 (No.002)、8. 不明B種実 (No.028)

第IV章 総括

今回の発掘調査地は幅が約1mという限られたトレンチであったにもかかわらず多数の遺構を確認し多量の遺物が出土した。この成果の意義や今後の課題について簡単にまとめてみたい。

①麻神遺跡という古くから知られた縄紋遺跡の再確認、再発見ができた。昭和46・47年の1・2次調査は当地域では縄紋中期集落の本格的な発掘調査としてはかなり古い事例で、その成果は地域の縄紋遺跡・遺物の研究に大きく貢献した。しかし2次調査後の大規模なほ場整備で地形は一変し、遺跡は壊滅したとされていた。今回の調査で、部分的ではあるがかなり良好に遺構が残存していることが判明し、さらに現在の地形図にかつての1・2次調査地や遺構の位置を落とし込むこともできた。これまで以上に広範な範囲で遺構分布が把握でき、麻神縄紋集落の理解に大きく役立つものと言える。本書では集落の展開についてまでは言及はできなかったが、本書のデータを活用した研究の深化を大いに期待したい。

②縄紋中期後半を主体とする12棟の竪穴建物が発見された。トレンチ幅に限定されるので竪穴建物全形についての所見は不能だが、炬炬を確認できたものが4棟あり、うち2棟は石囲炉のほぼ全形を把握した。いずれも平面が長方形を呈しており、遺構の時期と関連させた炬炬態の研究で好例となろう。一方で、埋裏の発見は1基のみにとどまった。1・2次調査では、それぞれ2基、3基が発見されており、たまたま調査範囲内になかったと理解すべきであろうか。竪穴建物の配置はA4TとB1Tへの集中が顕著で、その間に位置するA5Tは希薄であった。A4TとB1Tの間は約130mもあり、一体で大型の環状集落の両端部と捉えるか、別個の居住域と理解すべきか、1・2次調査の成果も織り込んだ今後の検討課題である（その点でもA6Tが完全に削平破壊されていたのは残念であった）。

③出土した縄紋土器では、中期後葉のいわゆる唐草紋系土器が主体を占め、当該土器の本貫地のひとつと目される松本平南部での類例の追加となった。土坑1から集中的に出土した中期末の土器群は、樽形をした唐草紋系土器の流れを引くものと、それらとは全く異なる胴部中位がくびれ気味になる外形で沈線区画内に細かい縄紋が付されるのものの二者の違いが際立っていた。この時期の土器は周辺遺跡での類例も増えており、本例の追加により、さらなる地域相の解明につながることを期待している。

④弥生時代の土器と石器が出土した。1・2次調査でも出土があり、量的には少ないが弥生中期中葉の時期でまとまる。小規模な集落が遺跡内に存在した可能性を示唆すると考える。この時期の遺跡は遺物のみの出土が多く、遺構があっても土坑等が中心で竪穴建物を把握した例は少ない。本例もそれに類するものとなったが、旧地形の復元をもとに弥生時代の遺跡立地という点で考察を進める必要がある。

⑤17・22住炉の埋土、23住出土土器の充満土を水洗したところ炭化植物が検出され、種同定でアズキ亜属、ダイズ属などが確認された。また、出土土器全点で種実圧痕を精査し、24点のレプリカを採取、同定した。詳細な内容は第3章4節で述べられているとおりだが、近年の炭化植物や土器種実圧痕の研究はめざましい進展を遂げ、縄紋時代の栽培植物などをめぐる視点は大きく変わってきている。本調査でもそれに貢献できる成果が得られたことは特筆に値しよう。

最後になりましたが、本調査の実施と本書の刊行にあたり、ご協力をいただいた地元をはじめとする関係者、関係機関各位、作業に携わった皆様、地域の歴史解明に支援を惜しまれなかった多くの市民の皆様並びに自然科学分析を実施していただいた先生方に満腔の謝意を表し結びといたします。



遺跡周辺航空写真（破線は遺跡範囲、S=1:15000）

国土地理院のデータをもとに作成
(昭和50年撮影)



A4T 完掘西から



B1T 東半分 完掘西から



15住 完掘東から



16住 完掘東から



16住 遺物出土状況東から



15住 か址



16住 か址



17・18住 完掘東から



17住 か址



17住 遺物出土状況



22住 完掘東から



22住 炉址



23住 完掘西から



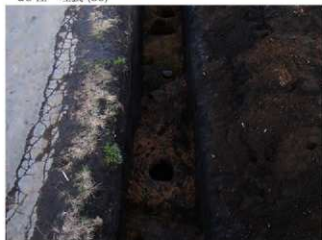
23住 土器(92)出土状況



23住 埋葬(89)



23住 埋葬石蓋



24住 完掘西から



25住 完掘東から



A3T 土1 遺物出土状況 上層1面



A3T 土1 遺物出土状況 上層2面



A3T 土1 裸面



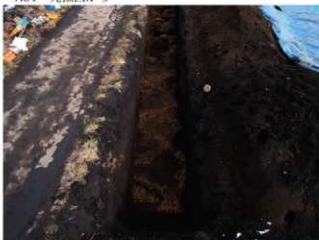
A3T 土1 底面炭の広がり



A3T 完掘西から



A4T 完掘東から



B1T 西側 完掘西から



B1T 西側 完掘東から



29



28



89 (埋葬)



79



92



121



19



土-5



土-10



土-3



土-4



土-1



土-2

土器はおおよそ S=1/4、土製品は S=1/2

石鏃・石錐



S=1/2

打製石斧



磨製石斧



砥石・石棒



S=1/3

磨石類



S=1/4

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし おがみいせき だい3じはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 麻神遺跡 第3次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.238							
編著者名	会田進、佐々木由香、那須浩郎、直井雅尚、原田健司、三村竜一							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2020(令和2)年3月23日 (令和元年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おがみ 麻神	ながのけんまつもとし 長野県松本市 はた 波田 はら 7338番地ほか	20202	1807	36度 11分 23秒	137度 51分 52秒	20181108 (H30.11.8) ～ 20190111 (H31.1.11)	300㎡	県営畑地帯総合 土地改良事業 (中下原平林地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
麻神	集落跡	縄紋	竪穴建物 12棟 (第15～26住)	[土器] 縄紋土器	土 坑 15基 土製品 土偶、甕形土製品 ミニチュア (石器・石製品) 石鏃、石錐、打製石斧、 磨製石斧、磨石類等	・縄紋時代中期の集落址の一部を調査した。中期後半の竪穴建物が重複して検出された。 ・縄紋時代中期の土器と石器が多量に出土した。		
			ピット 38基 溝址 1条					
		弥生	なし	[土器] 弥生土器 [石器] 太型蛤刃石斧		・弥生時代中期の土器と石器が出土した。		
要約	<p>・麻神遺跡の第3次調査で、県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘として実施した。竪穴建物を主体とする縄紋時代中期の集落跡を調査し、同時期の土器・石器を中心とする多量の遺物を得た。竪穴建物のうち10棟は中期後半に属し、2地点に分かれるがいずれも重複が著しい。竪穴建物内からは大形の石圓がや埋蔵が発見された。弥生時代の遺物は、中期中葉に属する土器片と太型蛤刃石斧がA4トレンチからまとまって発見されたが遺構は把握できなかった。</p>							

松本市文化財調査報告No.238

長野県松本市

麻神遺跡

— 第3次発掘調査報告書 —

発行日 令和2年3月23日

発行 松本市教育委員会

〒390-8620 松本市丸の内3番7号

印刷 藤原印刷株式会社

